

ニ至リ且織物中ニハ奢侈的消費ニ屬スルモノ亦尠カラサルヲ以テ若シ現行ノ課稅方法及其ノ手續ニ付尙相當改善ノ方法ヲ講スルニ於テハ決シテ之ヲ廢止スルノ要ナキヲ認ム何トナレハ織物消費稅ハ總テ其ノ卸賣價格ニ對シ一割ヲ課スルニ過キスシテ他ノ間接國稅ニ比スルモ敢テ過重ナリト云フコトヲ得サルノミナラス一面之ニ依ル歲入ハ四千万圓以上ニ上リ有力ナル財源ノ一トナレルカ故ニ之ヲ存續スルコトトシ將來努メテ課稅方法ノ改善ヲ圖リ敍上ノ非難ヲ排除スルヲ妥當トスヘシ

二 織物ニ對スル課稅方法ハ現行法ノ通り從價ノ方法ニ依ルコト

(理由)現行法ハ從價稅ナルカ故ニ課稅價格ノ查定ニ關シ兎角紛議ヲ生シ易キノミナラス徵稅上官民相互ノ手數ヲ要スルコト多シ故ニ之ヲ從量稅ニ改ムヘシトノ說ヲ爲ス者アリ然レトモ從量稅ノ制度ハ必シモ可ナルモノニアラス何トナレハ織物ノ種類及品質ハ千差萬別ニシテ其ノ價格ハ各原料絲價ノ外染色ノ程度及配合、意匠ノ巧拙、嗜好ノ變遷、需給ノ消長等ニ支配セラルルコト多キヲ以テ固定的ナル從量稅ヲ採用スルトキハ其ノ課稅率ハ遂ニ取引價格變更ノ實況ニ應スルコト能ハサルノミナラス若シ假ニ其ノ品種ノ分類ヲ少クシテ簡單ナル從量稅制ト爲スニ於テハ其負擔ヲシテ甚シク不公平ナラシムヘク若シ亦此ノ不公平ヲ除カムカ爲強テ品種ノ分類ヲ細密ニシ稅率ニ緻密ナル等差ヲ設ケムカ現行從價稅ノ取扱ト何等異ル所ナキノミナラス其ノ固定的ナル點ニ於テハ從價稅制ヨリモ更ニ一層不可ナルモノアルヘシ故ニ多年慣熟シ來レル現行ノ方法ノ如ク之ヲ從價稅ト爲シ從量稅制ノ

三 長所ヲ加味シタル課稅方法ヲ採リ以テ其ノ施行ヲ圓滑ナラシムルヲ相當ト認ム

織物ノ原料タル棉花又ハ織物ノ機臺ニ課稅シ織物消費稅ヲ廢止スヘシトノ說アルモ現行ノ通製品ニ課稅スルコト

(理由)

(イ) 織物ノ原料トセラルル棉花ハ大部分之ヲ國外ヨリ輸入又ハ移入セラレ其ノ價額頗ル多額ニ上ルモノアルヲ以テ新ニ棉花消費稅ヲ創設シ之ニ依ル收入ヲ以テ徵稅上ノ手續煩雜ナリトセラルル織物消費稅ヲ廢止シ尙進ムテハ他ノ費消稅整理ノ資源ニ供スルコト爲サハ其ノ徵稅手續極メテ簡單ニシテ得ル所ノ利益大ナルモノアルヘシトノ說アリ而シテ此問題ヲ解決セムトセハ先以テ棉花ニ對シテハ從價幾割ノ稅率ヲ課スルヲ相當トスヘキヤヲ研究セサルヘカラス若シ假ニ從價ノ三割乃至五割ヲ課スルトセハ課稅物體ノ性質ニ鑑ミ實ニ苛重ニ過キ其ノ結果紡績業ヲ殆メ織物業、打綿業等諸般ノ工業ヲ脅威シ其ノ發達ヲ阻碍スルニ至ルヘク到底實行不可能ナリト謂ハサルヘカラス故ニ若シ國內諸工業ノ發達ヲ阻碍セサル程度ノ課稅ヲ爲サムニハ先ツ從價ノ一割若ハ二割以下ノ程度ニ之ヲ止メサルヘカラスモノト認ム此ノ前提ノ下ニ棉花課稅ノ可否ヲ

攻究スルニ

(1) 棉花ノ輸、移入ハ年ニ依リ多少ノ消長アルカ故ニ假ニ之ヲ最近三ヶ年ノ平均棉花輸、移入

價額ニ徴スルニ

輸、移入總價額

六億四千五百十萬圓

(内輸入)

六億三千四百九十五萬圓

内地消費ニ
屬スルモノ

三億〇六百三十萬圓

總價額ニ對スル割合

六百五十五萬圓

綿絲、綿布等トシテ
輸、移出スルモノ

三億三千五百二十萬圓

同

五割二分三厘

依テ右内地消費ノモノニ對シ從價一割ノ課稅ヲナスモノトセハ假ニ課稅ニ因ル消費減ナキモノト看做シ課稅總額三千六十三萬圓ヲ得ヘク之ニ從價ノ二割ヲ課スルニ於テハ課稅總額六千二百二十六萬圓ヲ得ルコトナルヲ以テ之ヲ大正九年度織物消費稅額四千二百萬圓ニ比スルトキハ從價一割ノ場合ハ一千百三十七萬圓ノ不足ヲ告ケ從價二割ノ場合ハ過剩額一千九百二十六萬圓トナルモ翻テ之ヲ綿織物ノ原料ニ對スル棉花ノ負擔割合ニ比較スルニ棉花ニ對シ從價一割ヲ課スルモノトセハ現行織物消費稅ヨリ輕キ計算トナルモ若シ從價二割ヲ課スルトキハ原料絲ノ加工手數少キ白木綿ノ如キハ棉花稅ノ方却テ重キコトナル加之現行織物消費稅ハ之ヲ廢スルモノナルカ故ニ結局相當擔稅力アル絹織物、毛織物若ハ絹綿交織物等ニ對シ課稅ヲ免除シテ擔稅力薄弱ナル綿織物ノ原料ニ對シ其ノ負擔ヲ重カラシメ且現ニ免稅シ居ル自家用木綿織物ニモ課稅スルノ不當ナル結果ヲ生スルニ至ルヘシ

(2) 若シ右ノ不合理ヲ除カムカ爲綿織物ニ免稅シ絹織物、絹綿交織物、毛織物、其ノ他ノ織物

- ニ對スル課稅ヲ存置スルトセハ斯稅ニ對シ徵稅手續繁雜ナリトノ非難ヲ緩和スルコト能ハサルノミナラス爲ニ絹綿交織物、綿毛交織物ノ如キハ其ノ原料綿絲ニ對スル棉花稅ノ外ニ織物稅ヲ更ニ負擔スルコトナル若シ此ノ二重課稅ノ非難ヲ避クル爲此等ノ織物ニ使用セラレタル原料棉花ニ相當スル稅金ヲ下戻スコトト爲サムカ此等ノ個々ノ織物中ニハ幾許ノ棉花ヲ使用セシヤラ一々判定スルノ手數ヲ要スルノミナラス綿毛交織物ノ如キニ至リテハ其ノ判定上ノ手數他ノ織物ニ比シ更ニ容易ナラス
- (3) 又棉花ハ織物ノ原料以外ニ打綿用、漁網用、火藥用又ハ縫絲其ノ他各種ノ紐絲等ニ使用セラレルカ故ニ此等ノモノニ對シテハ新ニ課稅ヲ爲スノ結果トナリ從テ此等諸工業ニ對スル打擊ハ決シテ尠少ナラサルヘシ
- (4) 尙輸、移入棉花ノ内其ノ五割二分強ハ紡績絲、綿織物、絹綿交織物、綿毛又ハ綿麻交織物、其ノ他諸種ノ綿製品トシテ再ヒ國外ニ輸、移出セラレルヲ以テ此等ニ對シテハ一般ノ消費稅ニ於ケルカ如ク免稅ヲ爲スヲ要シ爲ニ一々其ノ棉花ノ含有分量ヲ判定シ之ニ應シテ戻稅ノ手續ヲ爲ササルヘカラサルモ(2)ノ未段ニ述ヘタルカ如キ判定上ノ困難ヲ伴ヒ甚シク取扱ヲ繁雜ナラシメテ官民共ニ不利ヲ招クニ至ルヘシ
- (5) 更ニ棉花稅ハ輸入綿絲、綿織物其ノ他ノ綿製品ニ課稅シ得サルカ爲内地生産品トノ間ニ甚

シキ不公平ヲ生シ内國産業ヲ壓迫スル等幾多ノ不可ナル點アリ

- (ロ) 又織物ノ機臺ニ課税シ織物消費税ニ代フルヲ可トスヘシトノ説ニ對シテハ一見課税手續ヲ簡單ナラシムルモノアルカ如シト雖モ (1)機臺課税ハ織物ノ種類等ニ依リ之ヲ區別スルコト能ハス又其ノ製造能力ノ調査困難ナルモノアルヲ以テ之ニ對シテ公平ナル課税ヲ爲スコト能ハス (2)若シ假ニ一臺當リノ均等税ト爲スモノトセハ最近ノ統計ニ依ル自家用ノモノヲ除キ全國ノ機臺數ハ約九十一萬七千臺ヲ以テ此ノ機臺ヨリ大正九年度織物消費税額四千二百萬圓ヲ得ムトスルニハ一臺平均四十五圓以上ヲ課セサルヘカラサルモ斯クノ如キハ到底機業者ノ耐ヘ難キ所ナルヘシ (3)其ノ他機臺課税ハ輸入織物ニ對シテハ課税ヲ爲シ得サルカ爲之ト内地産織物トノ間ニ負擔ノ權衡ヲ保タシムル能ハサルノミナラス輸出織物ニ對シテハ機臺課税相當額ヲ下戻スノ途ナキニ因リ輸出貿易ニ阻碍スルノ結果ヲ生スヘシ

四

現行ノ各種織物ニ對スル從價一割ノ課税率ハ之ヲ改正セサルコト

(理由)現行法ハ奢侈的消費ニ屬スル絹織物タルト下層階級ノ必需品タル綿織物タルトヲ問ハス同一ノ課税ヲ爲スカ故ニ負擔ノ權衡ヲ得サルモノアリ依テ綿織物ニ對シ課税ヲ免除シ代フルニ左記ノ如ク絹織物ノ税率ヲ昂メ其ノ他ノ織物ニ付テハ現行ノ税率ヲ据置クコトニ改正スヘシト主張スルモノアリ

絹織物

價格百分ノ二十

綿織物ヲ除キタル其ノ他ノ織物

價格百分ノ十

然レトモ此ノ説ニ對シテハ左ノ如キ種々ノ缺點アルヲ以テ現行税率ノ通り課税スルヲ相當ト認ム

- (イ) 綿織物ノ課税ヲ免除スルトキハ之ト畧々同一品ナル麻織物ノ普通品、綿麻交織物、紙布等トノ間ニ負擔ノ權衡ヲ失シ且綿織物中ニハ久留米緋、襯衣、手巾地等上層階級ノ消費ニ供セララルモノ尠ナカラサルト同時ニ絹織物中ニモ下等ノ銘仙類ノ如キ下層階級ノ消費ニ屬スルモノアルヲ以テ課税ノ衡平ヲ失スヘキコト
- (ロ) 絹織物ノミニ對シ増税スルヲ以テ麻織物ナル薩摩上布又ハ優良ナル毛織物洋服地類ノ如キハ下等ノ銘仙類ヨリモ輕キ課税ヲ受ケ不衡平トナルヘキコト
- (ハ) 織物ハ其ノ原料絲ヨリモ寧ロ意匠加工ノ程度ニ依リ其ノ價格ヲ左右セサルモノナルヲ以テ單ニ之ヲ組成スル絲質ニヨリテノミ課税率ヲ異ニスルカ如キハ理由ナキコト
- (ニ) 織物ノ種類ニ依リ課税率ヲ異ニスルトキハ絹綿其ノ他ノ交織物ノ如キ之カ査定ニ當リ其ノ組成原料ノ割合ヲ判定スルコトノ困難ナル場合尠ナカラサルニ由リ從來ニ比シ當業者ノ苦情ヲ多カラシメ且課税標準價格ノ設定等ニ多大ノ手數ヲ増加シ延テ多クノ徵稅費ヲ要スヘキコト

五

織物トノ權衡上メリヤズ及フエルトニモ課税スルコトトシメリヤズ及フエルトハ織物ト看做ス旨ヲ織

物消費税法中ニ規定シ織物ト同一率ノ課税ヲナスコト

(理由)メリヤス及フエルトハ織物ト其ノ效用ヲ同シクシ且別表ニ示スカ如ク近時著シク其ノ生産數量ヲ増加スルニ至レルヲ以テ織物トノ權衡上織物ト同一率ニ依リ課税ヲ爲スノ必要アリト認ム

或ハメリヤスハ内地消費ノ外輸出セラレルモノ多キヲ以テ内地消費品ニ對シ課税ヲ爲ス結果輸出品ニ對シテモ相當ノ檢束ヲ加フル必要アリ爲ニ輸出貿易ノ發達ヲ阻碍スルコト大ナルヘシト謂フト雖モ輸出品ニ對シハ最初ヨリ課税ヲ免除シ且現行ノ織物ニ於ケルト同様努メテ其ノ手續ヲ簡單ナラシムヘキカ故ニ敢テ輸出ヲ阻碍セサルヘシ

或ハメリヤスハ其ノ工程上製品ト生地トノ分界ヲ立ツルコト難ク從テ納税濟否ノ甄別ヲ明確ニスル能ハサル結果脱税ノ防止頗ル困難ナルモノアルヘシト謂フト雖モ之亦現ニ課税シツアル織物中モ一ル織肩掛地又ハ片側帶地連製ヲオル地ニ於ケルカ如ク其ノ生地ト製品トノ分界ヲ立ツルコト左マテ困難ナラス從テ相當取締ヲ爲スコトヲ得ヘシ

或ハフエルトハ其ノ生産額僅少ニシテ之ニ依リテ得ヘキ歳入見込額僅ニ二十萬圓ニ過キサルノミナラス大部分ハ帽子ノ原料タル帽體ニ屬スルカ故ニ斯業ノ獎勵上之ニ課税セサルヲ可トスヘシト謂フト雖モ現ニ織物ヲ原料トシテ帽子ヲ製造スルコト尠ナカラサルノミナラスフエルト中ニハ卓子掛其ノ他奢侈的消費ニ屬スルモノ多キカ故ニ毛織物トノ權衡上之ニ從價一割ノ課税ヲ爲スモ敢テ不可ナシ

ト認ム

(附表)

メリヤス及フエルトノ製造場數並生産額調

種 類	大正十年七月一日		内地消費		外國輸出		内地消費ニ對スル税額
	製造場數	平均生産價額	内地消費	外國輸出	外國輸出	外國輸出	
メリヤス	絹製	三	三、七四三	一、八七七、〇三三	—	—	—
	毛製	六	四、八七五、五九五	一、八七七、〇三三	—	—	—
	綿製	一	一、七三五	三、七四三	—	—	—
フエルト	毛製	三	三、七四三	一、八七七、〇三三	—	—	—
	其他	一	一、七三五	三、七四三	—	—	—
合 計			一、九六〇	三、七四三	—	—	—
合 計			一、九六〇	三、七四三	—	—	—

(此メリヤス及フエルトノ課税ニ因ル消費減額ニ對シ見込ミ歳入二、八五五、〇六六圓トナル)

○印紙税

一 印紙税ノ制度ニ付テハ定額、階級定額併用制ト爲シ其ノ税率ヲ左ノ通定ムルコト

甲

爲替手形

約束手形

産業組合又ハ産業組合聯合會銀行ノ預

金

貯金積金證書

丙

産業組合又ハ産業組合聯合會ノ發スル

出資證券

住宅組合ノ發スル出資證券

貯蓄銀行法第一條ノ貯蓄預金通帳

産業組合ノ發スル貯金通帳

二錢

(理由)印紙税ノ制度ニ付テハ (一)比例制又ハ (二)比例、定額、階級定額併用制若ハ (三)定額制等各種

ノ課税方法アリ其ノ理由左ノ如シ

(一) 比例制 租税ハ總テ各人ノ負擔能力ニ應シテ之ヲ課スヘキモノナルカ故ニ印紙税モ亦之ヲ比例
税ト爲シ金高記載ナキ證書又ハ通帳ヲ定額税トスルノ外總テ各證書ノ記載金高ニ應シ印紙ヲ貼
用セシムルヲ至當トス

(二) 比例、定額、階級定額併用制 印紙税ヲ納ムヘキ證書、帳簿ハ常ニ頻繁ニ作成セラルルヲ以テ

印紙税ハ成ルヘク簡單ヲ尙フト雖モ同時ニ亦負擔ノ權衡ヲ失ハサルヲ要ス依テ原則トシテ比例
制ヲ採リ其ノ頻繁ニ作成セラルル證書、帳簿ニ對シテハ低キ定額税ヲ課シ約束手形又ハ爲替手
形等ノ如ク頻繁ニ作成セラルルモ亦一面擔税力ニ富ム證書ニ對シテハ級階定額税ヲ課スルヲ可
トス即チ現行制度ハ大體ニ於テ以上ノ趣旨ニ副フモノニシテ克ク理論ト實際トヲ調和セルモノ
ナルヲ以テ之ヲ其儘ニ据置クヲ可トス而シテ現行法中偶々負擔ノ權衡ヲ失セルモノアルニ依リ
此等ニ付相當改正ヲ加フヘシ

(三) 定額制 印紙税ヲ納ムヘキ證書、帳簿ハ頻繁ニ作成セラレ而モ其ノ税額ハ納税者自ラ之ヲ算定
シテ印紙ヲ貼用セサルヘカヲサル故ニ税率ハ可成簡明ナルヲ要ス加之此ノ如クスルトキハ證書、
帳簿ノ性質ニ依リ何レノ税率ヲ適用スヘキヤ等ノ疑問ヲ少カラシムルヲ以テ税法施行上ノ圓滿
ヲ期シ得ヘク自然印紙ヲ貼用スルコト容易ニシテ脱税ヲモ防止シ得ヘシ

右各説ハ各相當ノ理由ナキニアラスト雖モ亦各缺點アリ仍テ左記理由ニ依リ前記三制以外ノ定額、
階級定額併用制ヲ最モ適當ト認ム

(一) 比例制ハ理論ニ趨リテ實際ヲ顧ミサルノ嫌アリ即チ比例制ニ於テハ證書ノ作成者ハ其ノ作成毎
ニ一々其ノ税額ヲ計算スルノ要アルモ印紙税ヲ納ムヘキ證書、帳簿ノ如ク頻繁ニ作成セラルル
モノニアリテハ一々其ノ税額ヲ算定スルコトハ頗ル手數ニシテ自然商取引ノ敏活ヲ阻害スルノ

ミナラス税額ノ算定ヲ誤リ不知不識不足ノ印紙ヲ貼用シテ損失ヲ招キ若ハ其ノ税額多額ニ上ル
爲收税官吏ニ検査權ナキニ乘シ漫然三錢印紙ヲ貼用シ又ハ全然印紙ノ貼用ヲ爲ササルモノ少カ
ラサル狀況ナルヲ以テ比例制ハ不可ナリ

(二) 比例、定額、階級定額併用制ハ克ク理論ト實際トヲ調和セル制度ナルカ如シト雖モ各種ノ證書、
帳簿ヲ其ノ性質ニ應シ適當ニ此ノ三者ニ區分スルコトハ立法上至難ナルノミナラス假ニ之ハ區
分シ得タリトスルモ其ノ適用ニ至リテハ其ノ證書ノ意義内容明確ナラサル爲比例税ニ依ルヘキ
モノナルカ將亦定額税ニ依ルヘキモノナルカニ付官民共ニ疑問ヲ生スルコト多カルヘク殊ニ比
例税ニ依ルモノニシテ其ノ税額多額トナルモノニ付テハ動モスレハ脱税ヲ圖ルモノヲ生シ易シ
要スルニ區分細密ナルハ理想上可ナリトスルモ之ト同時ニ適用上ノ紛争又ハ脱税ヲ醸スコト多
ク其ノ結果却テ不權衡ヲ來ス虞アルヲ以テ不可ナリ

(三) 定額制ハ甚ダ簡便ナリト雖モ證書ノ性質及其ノ負擔能力ヲ問ハズ總テ同一税率ヲ課セントスル
モノナルヲ以テ甚ダ不衡平ニシテ租税賦課ノ原則ニ反スルモノナリ

(四) 比使制、定額制ハ各極端ニ失シ又比例、定額、階級定額併用制ハ煩瑣ニ涉ルヲ以テ定額、階級定
額併用制ヲ採ルヲ可トス元來印紙税ヲ納ムヘキ證書、帳簿ハ煩瑣ニ作成セラレ而モ其ノ税額ハ
納税者自ラ之ヲ算定シテ印紙ヲ貼用セサルヘカラサルカ故ニ税率ハ可成簡明ナルヲ要スルモ去

リトテ全然各證書、帳簿ノ負擔能力ヲ無視スルハ不可ナルカ故ニ最モ煩瑣ニ作成セラレ比較的
擔稅力少キ證書、帳簿ニ對シテハ定額税ヲ課スルコトトシ擔稅力大ナル證書、帳簿ニ對シテモ
單ニ比例制ト爲サス簡明ヲ期スルカ爲一定ノ階級ヲ設ケ其ノ區間ニ於テハ定額税ヲ課スルコト
トシ以テ煩瑣ニ涉ラサル程度ニ於テ負擔ノ權衡ヲ圖ルヲ適當ト認ム
而シテ税率ヲ本文ノ如ク定ムルヲ可ト認メタル理由左ノ如シ

(イ) 委任狀外二十一種ノ證書、帳簿ハ煩瑣ニ作成セララルノミナラス比較的擔稅力少キモノト
認ムルヲ以テ之ヲ五錢ノ定額税ト爲シタリ而シテ現在此等證書、帳簿ニ對スル現行印紙税
ハ三錢ノ定額税ナルカ故ニ之ヲ五錢ト爲スニ於テハ七割ノ増率トナルモ現行税率ハ明治三
十七年ノ改正ニ係リ爾來經濟界ノ發展著シク之ヲ物價指數ニ見ルモ同年ヲ一〇〇トセハ大
正九年中ノ平均ハ三〇九ヲ示セルヲ以テ其ノ税率三錢ヲ五錢ニ引上クルハ決シテ過當ニ非
スト認ム

(ロ) 爲替手形、約束手形、株券、債券、定期預金證書ノ如キハ比較的負擔力大ナルモノト認メ
之ヲ階級定額税ト爲シタリ而シテ此等ノ證書ニ對スル現行税率ハ概ネ定額税ニシテ唯約束
手形ノミハ階級定額税ナリ而シテ其階級ハ頗ル繁多ニシテ税率モ亦記載金高ニ適應セス金
額千圓以下ノ分ニ對シテハ比較的重ク五千圓以下ハ十萬分ノ二ニシテ最モ低ク以上其ノ金

額多クナルニ從ヒ稅率モ累進セル爲其ノ記載金高多キモノニ就テハ負擔重ク自然脫稅多カリシヲ以テ改正案ニ於テハ可成其ノ階級ヲ少クシ且稅率ハ總テ記載金高十萬分ノ一ヲ以テ一貫スルコトトシ尙證書中最モ多數ヲ占ムル記載金高五千圓以下ノモノニ付テハ總テ五錢トシ事實ニ於テハ大體定額制ヲ採ルト同様ノ結果ヲ來サシメ以テ取扱上ノ簡便ヲ圖ルコトトセリ

(ハ) 次ニ產業組合又ハ產業組合聯合會及住宅組合ノ發スル出資證券及貯蓄銀行法第一條ニ依ル貯蓄預金并產業組合ノ取扱フ貯金ノ各通帳ノ稅額ヲ特ニ二錢ト爲シタルハ產業組合又ハ產業組合聯合會及住宅組合ノ發行スル出資證券ニ對シテハ全然免稅スヘシトスヲ爲ス者アリ其ノ主張スル所ニ依レハ此等ノ組合ハ國民生活ノ安定ヲ圖ラントスル公益上ノ趣旨ニ出テタル法人ニシテ而モ其ノ出資證券ハ當該組合ノ根本組織ニ關スルモノナルヲ以テ免稅スルヲ至當トスト謂フニ在ルモ印紙稅ハ元來普遍的ニ適用スルコトヲ主眼トス而シテ此等ノ法人ハ果シテ印紙稅ヲ全免シテマテ保護スルノ價値アリヤ否ヤ疑アルノミナラス若シ公益ノ故ヲ以テ免除ストセハ他ノ多種多樣ノ公益法人ニ對シテモ亦均霑ノ必要ヲ生スヘク殆ト際限ナキニ至ラン故ニ此等組合ノ發行スル出資證券ニ對シテ全然免稅スルハ不可ナリト雖モ亦此等組合ノ性質目的等ニ鑑ミルトキハ之ニ階級定額稅ヲ課スルハ勿論不可ニシテ五錢ノ

定額稅ヲ課スルモ尙聊カ重ニ過クルノ感アルヲ以テ特ニ其ノ稅率ヲ輕減シテ約半額ト爲スヲ適當ト認ム而シテ貯金通帳ノ印紙稅モ亦之ヲ全免スヘシト爲ス者アリ其ノ主張スル所ニ依レハ貯蓄銀行ノ貯蓄預金及產業組合ノ貯金ハ一回ノ預入金額概ネ零細ナルノミナラス通帳ノ使用一年僅ニ數回ニ止マルカ如キモノ決シテ稀ナラサルカ故ニ之ニ一般普通ノ印紙稅ヲ課スルニ於テハ自然貯金利子ヲ低下スルコトトナリテ貯蓄獎勵ノ趣旨ニ反スルヲ以テ其ノ印紙稅ヲ全免スヘシト謂フニ在ルモ之亦前項出資證券ニ對スル免稅ノ不可ナルト大體同様ノ事由ニ依リ全免スヘキモノニ非スト認ム但シ其ノ全免ヲ主張スル事由等ニ鑑ミルトキハ之亦他ノ通帳同様五錢ノ定額稅ヲ課スルハ聊カ重ニ失スルノ感アルヲ以テ前者同様約半減シテ二錢ト爲スヲ適當ト認ム

二 課稅最低限ノ現在五圓ナルヲ十圓ニ引上クルコト

(理由) 課稅限度ヲ二十圓又ハ三十圓ニ引上タヘシト爲ス者アリ其ノ主張スル所ニ依レハ現行稅法ハ明治三十二年ノ制定ニ係リ爾來二十餘年ヲ經過シタルカ其ノ間經濟界ノ發展著シキモノアリテ試ニ之ヲ物價指數ニ見ルモ明治三十三年ノ十月ノ百ニ對シテ大正九年中ノ平均ハ三百四十三ヲ示セルノミナラス尙將來漸次騰貴ノ大勢ニ在ルカ故ニ寧ロ此ノ際二十圓又ハ三十圓ト爲スヲ相當トスト謂フニ在リト雖モ大正九年中ノ物價ハ寧ロ騰貴ノ絕項ニシテ將來ハ多少降下スヘキ傾向ヲ有スルモノト認

メラルルノミナラス改正税額五錢ハ之ヲ從來ノ定額税(三錢)ニ比スルモ七割ノ引上ニ過キサルカ故ニ課税限度モ之ヲ十割マテ引上クレハ充分ニシテ一躍四倍ニ引上クルカ如キハ突飛ニ過クルモノト謂ハサルヘカラス

三 物品切手ノ課税最低限一圓ハ現行ノ儘据置クコト

(理由)物品切手ノ課税限度ヲ二圓ニ引上クヘシト爲ス者アリ其ノ主張スル所ニ依レハ已ニ他ノ一般證書、帳簿ノ課税限度ヲ二倍ニ引上クル以上獨リ物品切手ニ限り之ヲ一圓ニ据置クハ不衡平ナリト謂フニ在ルモ物品切手ハ現在ニ於テスラ一圓未滿ノ小額切手ヲ多數合綴シテ發行シ事實上脱税ヲ圖ルモノアル状態ナルカ故ニ其ノ課税限度ヲ引上クルニ於テハ一層分割發行ノ弊ヲ助長シ事實上ノ脱税盛ニ行ハルルニ至ルノ虞アリ依テ課税限度ハ之ヲ現行ノ儘据置クヲ相當ト認ム

四 一通ノ證書ニ同時ニ數種ノ事項ヲ記載シタル場合ニ於テ各税率ヲ同ウスルトキハ其ノ一箇分ニ對シテノミ課税シ税率ヲ異ニスルモノアルトキハ其ノ高率ノ分ニ課税スル旨ノ規定ヲ設クルコト

(理由)本項ノ規定ヲ設クルコトニ反對スル者アリ其ノ主張スル所ニ依レハ印紙税ハ財産權ノ創設、移轉、變更、消滅ヲ證明スヘキ記載事項ノ一箇毎ニ課税スルヲ至當トスト謂フニ在ルモ現行法ニ於テモ既ニ主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約、證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書ノ如キハ何レモ免税シツツアリ如此併記又ハ裏書等ヲ爲スハ元來證書流通上ノ便益又ハ取引ノ敏活ヲ

期圖セムトスルヨリ出テタルモノニシテ強テ印紙税ノ負擔ヲ免レムトスルノ趣旨ニ非サルヘシ然ルニ單ニ理論ニ拘泥シテ之ニ相當印紙ヲ増貼セシムルハ多少酷ナルノミナラス其結果取引上ニモ影響ヲ及スヘキヲ以テ修正案ニ於テハ一步ヲ進メ一通ノ證書ニ同時ニ記載シタルモノハ其ノ證明事項ノ二箇以上ニ亘ル場合ト雖モ總テ一箇分ノ課税ニ止メ税率ヲ異ニスルモノアルトキハ其ノ高率ノ分ノミニ課税スルコトヲ穩當且便宜ナリト認メタリ

五 外國ニ於テ作成シタル證書、帳簿ヲ帝國内ニ於テ行使スルモ之ニ對シテハ印紙税ヲ課セサルコト

(理由)外國ニ於テ作成シタル證書、帳簿ヲ帝國内ニ於テ行使スル場合ニ其ノ内容カ我カ印紙税法ニ依リ印紙税ヲ納付スヘキモノナルトキハ該證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用セシムヘシト爲ス者アリ其主張スル所ニ依レハ現行印紙税法ハ證書、帳簿ヲ作成シタルトキ印紙税ヲ納付スヘキ旨ヲ規定スルモ單ニ證書帳簿ヲ作成シタルトテ之ヲ行使スルニ非サレハ何等財産權上ノ效力ヲ發生セサルニ依リ該作成ハ當然行使ヲ意味スルモノト解スヘク從テ外國ニ於テ作成シタルモノヲ單ニ受領シタルニ過キサルトキハ内地作成ニ係ル證書等ヲ受領シタル場合ト同シク勿論課税ノ必要ナキモ苟モ其ノ證書等ヲ以テ帝國内ニ於テ財産權ノ得喪變更ヲ目的トシテ行使スル以上ハ印紙税ヲ課スルヲ至當トスト謂フニ在リ然レトモ事實上ニ於テ作成ト行使トヲ全然區分シ其行使者ニ對シ課税スルコトハ事實上至難ナルノミナラス内地ニ於テモ一旦作成ノ際印紙ヲ貼用シタルモノニ付テハ其後更ニ之ヲ行使スルコトア

ルモ課税ヲ爲ササルカ故ニ外國作成ノモノニ限り之ニ課税スルハ穩當ナラスト認メラル依テ本説ハ不可ナリト認ム

六 犯則者ニ對スル罰料金ノ最低料ヲ五圓トシ不消印犯ハ三圓トスルコト

(理由)現行法ハ脱税犯ハ脱税高ノ二十倍ノ罰金又ハ科料ニ處スコトト爲セルモ其ノ最低額ヲ限定セズ又不消印犯ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處スルコトトナリ居レリ然ルニ現在印紙税ニ脱税多キハ脱税ニ對スル制裁カ脱税額ノ二十倍トシ其ノ最低額ヲ設ケサルカ故ニ三錢定額税ノ無印紙證書ニ對スル罰料金ハ僅ニ六十錢ニ過キササルヲ以テ二十通以上ノ無印紙證書ヲ發行スルトキハ假令其ノ内一通カ罰料金ヲ受クルモ尙利益ナルヲ以テ多數ノ證書類ヲ發行スル者等ニ在リテハ法ノ制裁ヲ豫期シナカラ打算的ニ脱税スルモノ多キニ因ルモノナリ依テ相當ナル最低限度ヲ設ケサレハ到底誠實ナル納税ヲ期シ難キモノト認メラルルヲ以テ其罰料金ノ最低額ヲ五圓トシ又不消印犯ハ概ネ印紙ノ再貼ヲ目的トシテ行ハルルモノナルヲ以テ之亦相當加重シ之ヲ三圓ト爲ス必要アリト認ム

七 印紙税ヲ納付セサルカ又ハ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル證書帳簿ヲ受領シタル者ニ對シテハ其ノ作成者カ處罰セラレタルト否トヲ問ハス收税官吏ハ受領者ノ費用ヲ以テ印紙ヲ貼用シ又ハ消印ヲ爲シ得ルコトトシ受領者カ其ノ費用ヲ任意納付セサルトキハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用スルコト

(理由)印紙税ニ脱税多キハ印紙ノ貼用ナキ證書帳簿ヲ漫然受領シ暗黙ノ間犯則ヲ曲庇スルカ如キ者

多キコトモ亦一大原因ナリ故ニ法律上特ニ規定ヲ設ケ斯ル受領者ニ對シテモ納税ノ義務ヲ負ハシメ以テ相互ノ警戒ヲ促スハ脱税防止上最モ必要ナリト認ム

八 印紙貼用ノ義務アル證書帳簿ヲ無印紙ニテ授受シタルトキハ裁判上證據力ヲ認メサル旨ノ規定ハ之ヲ設ケサルコト

(理由)印紙貼用ノ義務アル證書帳簿ヲ無印紙ノ儘授受シタルトキハ裁判上ノ效力ヲ認メサル旨ノ規定ヲ設ケヘシト爲ス者アリ其ノ主張スル所ニ依レハ印紙税ニ脱税多キハ諸種ノ理由ニ依ルト雖モ亦印紙貼用ノ有無カ何等權利ノ行使ニ關係ナキ爲受領者ニ於テ漫然之ヲ看過スルコトモ一大原因ナルヲ以テ印紙税法中ニ無印紙ノ證書帳簿ハ裁判上ノ效力無キ旨ヲ規定シ以テ受領者ノ警戒ヲ促スハ印紙税ノ取締上必要ナリト謂フニ在リト雖モ我民法、商法等ハ元來契約自由ヲ原則トシ成ルヘク要式行爲ヲ避クルヲ主眼トセルニ拘ラス收入ノ目的ヲ以テ制定セル印紙税ヲ納付セサルカ爲該證書等ハ根本ニ於テ效力ナシトスルハ穩當ナラサルヲ以テ不可ナリ印紙税創始當時同様ノ規定アリタルカ後之ヲ削除シタル趣旨亦茲ニ出ツルモノト認ム依テ斯カル規定ハ之ヲ設ケサルヲ相當トス

九 收税官吏ノ印紙税ニ關スル職務ノ就行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル場合ノ制裁規定ヲ設ケルコト

(理由)印紙税ニ脱税多キハ印紙税ヲ納付スヘキ證書帳簿ノ受領者ニシテ検査物件ヲ隱蔽シ若ハ検査ヲ

免ルル目的ヲ以テ之ヲ湮滅毀損スルモノ少カラサルコト一大原因ナルヲ以テ此等ノ行爲ニ對シ相當制裁ヲ加フルコトノ必要ナルハ勿論此種ノ規定ハ各間接國稅ニ於ケル殆ト共通の條項タルヲ以テ印紙稅ニモ亦之ヲ加ヘ以テ取締ノ徹底ヲ期スルヲ必要ト認ム

備考

以上改正ノ結果歲入ニ及ホス影響ヲ考フルニ元來印紙收入額ハ其ノ賣下高ニ依リ之ヲ計算シ得ルモ印紙收入中印紙稅法ニ依ル印紙收入額ハ何程ナルカヲ區分シテ明確ニ之ヲ計算シ難ク況ヤ如何ナル證書カ幾何作成セラルルヤニ至リテハ不明ナルヲ以テ稅率改正ニ依ル歲入ノ増減ヲ計上スルコトハ困難ナルモ現在作成セラルル證書帳簿ノ大部分ハ其ノ稅額三錢ナルヘキカ故ニ今回之ヲ五錢ニ引上クルニ於テハ相當增收ヲ期シ得ヘキニ似タリト雖モ一方免稅點五圓ヲ十圓ニ引上クル爲ニ生スル減收アルニ依リ結局改正後ノ歲入ハ現在ト大差ナキモノト認ム

丙 創設スヘキモノ

◇化粧品稅

化粧品ニ對シテハ左ノ理由並方法ニ依リ新ニ課稅ヲ爲スコト

一 化粧品ハ主トシテ奢侈的消費ニ屬スルヲ以テ課稅物體トシテ適當ナルノミナラス其ノ消費額ノ如キ年々著シク増加スルノ傾向アリテ大正七、八、九、三ヶ年度ノ平均内地消費價額ハ四千五百八十餘萬圓ニ達シ之ヲ大正五、六年ノ平均二千二百萬圓ニ比スルトキハ十割八分強ノ増加割合ヲ示セリ故ニ之ニ對シ從價一割五分ノ課稅ヲ爲ストキハ課稅ニ因ル消費減ヲ一割ト見込ミ六百十餘萬圓ノ歲入ヲ得ヘクシテ好箇ノ財源タルヘキコト

二 課稅手續ニ關シテハ現行ノ賣藥稅法ニ於ケルカ如ク定價ヲ附記セシメ之ニ相當印紙ヲ貼用セシムルコト

三 輸出品ニ對シテハ免稅スルコト

本案實行上困難ト認ムヘキ點ヲ舉クレハ左ノ如シ

(イ) 一般ニ印紙ヲ貼用セシムル結果香油、香水、髮油、化粧水類ノ量ヲ賣リノ慣習ヲ禁止スルヲ要スルニ至リ之カ爲供給者並需要者ニ苦痛ヲ與フルノミナラス脫稅ノ取締困難ナルコト

- (四) 化粧品用石鹼ト洗濯用石鹼トノ區分、化粧品用油類ト食油又ハ工業用油トノ區分、化粧品ノ原料ト化粧品トノ區分其ノ他一般ニ用法ニ依リテ化粧品トナリ又ハ他ノ用途ニ供セラレルモノトノ區分ヲ定ムルコト困難ナルコト
- (ハ) 化粧品ノ原料ハ時價ノ高低常ナク且運賃ハ場所ニ依リ異ナルモノアルヲ以テ課税ノ爲豫メ製品ニ一定ノ賣價ヲ附記セシムルコト困難ナルコト
- (ニ) 化粧品中石鹼、煉油、白粉ノ類ハ氣候ノ變遷又ハ濕熱等ニ依リ需要者ニ販賣スル以前ニ變敗又ハ分解シテ其ノ效用ヲ失フニ至ルコトアリ故ニ時々内容ヲ検査スルヲ要シ場合ニ依リテハ取換手直シ又ハ廢棄ヲ要スルヲ以テ印紙ヲ貼用スルトキハ此等ノ操作ヲ爲シ能ハサルコト
- (ホ) 化粧品中ニハ輸出セラレルモノ多シ右ニ對シテハ免稅セラレルトスルモ内地消費品ニ對シ課稅セラレル關係上輸出品ニ對シテモ相當ノ取締ヲ爲スノ要アリ爲ニ輸出貿易ノ敏活及發達ヲ阻碍スルコト
- 本案ヲ實行スルモノトシテ以上ノ諸點ヲ研究スレハ左ノ如シ
- (イ) 現在化粧品ノ大部分ハ相當ノ包裝ト裝飾トヲ施シテ發賣セラレ居ルカ故ニ一般ニ定價ヲ附記セシメ相當印紙ノ貼用ヲ爲サシムルコトハ格別困難ナラサルヘク而シテ量リ賣リノ如キハ化粧品全體ヨリ見レハ實ハ小部分ニ過キササルヲ以テ化粧品ニ課稅スルヲ可トスル以上之ヲ禁止スルハ已ムヲ得サルコトナルノミナラス現ニ同種ノモノニテ包裝ノ上販賣セラレルモノ多キヨリ見レハ左マテ當業者ニ苦痛ヲ與フ

ルモノト認メラレサルコト

- (ロ) 前段(ロ)ノ項ニ列記シタル物件ニ對シ其ノ課税、非課税ノ區別ヲ爲スコト一應困難ナルカ如ク感セラレルモ其ノ實際ニ於テハ個々ノ物件ニ就キ之ヲ實檢スルトキハ化粧品ナリヤ否ヲ解決シ得ヘク法律施行ノ當初ニ於テハ多少ノ疑義ヲ生スルコトアルヘキモ相當ノ期間ヲ經過セハ自ラ一定シ得ヘキモノト認メラルルコト
- (ハ) 化粧品ハ其ノ原料ノ時價、高低常ナク且運賃ハ場所ニ依リ異ルモノアルヲ以テ從テ製品ニ對シ定價ヲ附記スルコト困難ナリト云フモ現ニ印紙稅ヲ課シ居ル賣藥ノ例ニ徵スルニ其ノ内容量ノ増減又ハ定價ノ増減其ノ他地方ニ依ル割引價格ノ按排等ニ依リ適當ニ之ヲ調節スルコトヲ得ヘキヲ以テ定價ノ附記ヲ絶對ニ不可能ナリト爲スコトヲ得サルコト
- (ニ) 化粧品中ニハ需要者ニ販賣スル以前ニ其ノ效用ヲ失フモノアリトスルモ斯クノ如キモノニ對シテハ失効賣藥ノ例ニ倣ヒ印紙交換ノ方法ヲ採ルヘキカ故ニ敢テ當業者ニ不便ヲ與フルコトナキコト
- (ホ) 輸出スヘキ化粧品ニ對シテハ現在ノ輸出賣藥ニ於ケルト同様最初ヨリ課稅ヲ免除シ成ルヘク其ノ取扱ヒヲ簡便ナラシムヘキカ故ニ敢テ輸出ヲ阻碍スルコト大ナラサルヘキコト

(附表)

化粧品製造者及輸入者數並生産額調

年次	製造者	輸入者		内地消費高	外國輸出高	合計
		輸入者	計			
大正七年				二八、六四、三七	二、五七、七六〇	三一、九二、〇九七
同八年				五三、七〇、二七	六、四三九、九七	五八、七〇、〇三
同九年				五六、六六、五四	五、五四〇、五四	六二、一九、〇八
平均	大正十年七月現在	一、五五	六	四、八四六、〇七〇		五〇、六六、四五

備考 一 課税ニ因ル内地消費減チ一割ト見込ミ此從價

一割五分ノ稅額 六、一八九、七九五

二 徵收費總額 初年度 六、〇三三 平年度 六、〇七七

純收入 初年度 六、三三、四三三 平年度 六、二五、〇六八

既往五ヶ年ニ於ケル化粧品ノ生産額調

區	大正五年		大正六年		大正七年		大正八年		大正九年	
	内地消費	内地生産	内地消費	内地生産	内地消費	内地生産	内地消費	内地生産	内地消費	内地生産
内地消費	一七、二九、八三	一八〇、六五三	三三、七三、二八	九六、七二	二七、七三、〇元	八二、二九八	五〇、五三、三〇	五、一八四、五三	五、一八四、五三	五、一八四、五三
内地生産	一八〇、四九二	一、〇〇、四九二	三三、三九、〇六	二、〇〇、四九〇	二六、六四、三三	二、五七、七六〇	五三、七〇、二七	一、四七、〇三八	五、六六、五〇	五、五〇、五〇
外國輸出入	一、五三、七六三	一、五三、七六三	二、〇〇、四九〇	二、〇〇、四九〇	三、五六、七六〇	三、五六、七六〇	六、四三、九七	六、四三、九七	五、五〇、五〇	五、五〇、五〇
合計	一九、五四、二五	一九、五四、二五	三五、二四、八〇	三五、二四、八〇	三、一九、二〇九	三、一九、二〇九	五八、七〇、〇三	五八、七〇、〇三	六、一九、二〇九	六、一九、二〇九

備考

一 大正九年ニ於ケル内地消費化粧品ノ内重ナルモノ左ノ如シ

種類	消費價額	總額ニ對スル割合		種類	消費價額	總額ニ對スル割合	
		總額	割合			總額	割合
化粧用石鹼	三、四六〇	三、四六〇	一三、六	香油類	六、七四四	二九	二九
白粉	八、一〇八	八、一〇八	三三、六	磨粉	三、八四一	〇、九	〇、九
化粧水及化粧下	七、三三五	七、三三五	二八、〇	香水	三、〇二一	〇、五三	〇、五三
其他	五、一二六	五、一二六	一八、九	其他	五、一二六	一八、九	一八、九
合計	五、六六六	五、六六六	一九、〇	合計	五、六六六	一九、〇	一九、〇

清凉飲料稅

清凉飲料ニ對シ左記方法ニ依リ新ニ課税スルコト

- 一 炭酸瓦斯ヲ含有スル清凉飲料ニ課税スルコト但シ炭酸瓦斯ノ含有量萬分ノ五ニ滿タサルモノハ之ヲ課税外トシ尙酒精分一度以上ヲ含有スル清凉飲料ハ之ヲ酒精含有飲料トシテ同稅法ニ依リ課税シ清凉飲料ノ範圍外ト爲スコト
- 二 清凉飲料製造者ヲシテ毎月其ノ前月中ニ於テ製造場ヨリ移出シタル清凉飲料ノ石數ヲ申告セシメ該石數ニ對シテ一石十圓ノ移出稅ヲ課スルコト
- 三 製造場内ニ於テ消費セラレタル清凉飲料ハ之ヲ製造場外ニ移出シタルモノト看做ス旨特ニ法律ニ規定シ之ニ課税スルコト
- 四 第二項ノ税金ハ移出ノ翌月之ヲ徵收スルコト但シ擔保ヲ徵シテ一定期間(例ニ三月)ノ延納ヲ許スコト
- 五 外國ヨリ輸入シタル清凉飲料ニハ保稅地域ヨリ引取ノ際一石十圓ノ引取稅ヲ課スルコト

六 外國ヨリ輸出シタル清涼飲料ニ對シテハ其ノ税金並使用砂糖ノ砂糖消費税ニ相當スル金額ヲ交付スル

コト

七 徵税ニ關スル取締並制裁規定ハ大體酒類其ノ他ノ消費税ニ準スルコト

(參照)課税ニヨル平年度收入見込額二百二十七萬八千圓

(理由)清涼飲料課税ノ不可ナル點

(イ) 清涼飲料ナル名稱ハ本來其ノ意義明確ナラス從テ之ニ課税セント欲セハ其ノ範圍ヲ清涼飲料中炭酸瓦斯ヲ含有シ其ノ刺激ニ依リテ飲用者ヲシテ爽快ヲ感セシムル飲料ニ限定スルノ外ナカルヘキモ炭酸瓦斯ヲ含有セサル飲用ニシテ之ヲ含有セルモノト殆ト同様ニ飲料セラルルモノ亦決シテ尠カラス例ヘハ葡萄其ノ他ノ果實ノ汁液又ハ果實蜜等種々アリ依テ其ノ飲用ノ常態ヨリ課税ノ權衡ヲ圖ラムト欲セハ此等ノモノニ對シテモ課税セサルヘカラスト雖モ斯クテハ殆ト際限ナク彼ノ玩弄トシテ販賣セラルル「蜜柑水」ノ如キモノニ對シテモ課税セサルヘカラサルカ如キ結果トナルヲ以テ寧ロ總テ課税セサルヲ可トス

(ロ) 清涼飲料ニ對スル課税ヲ當業者ノ申告ヲ標準トシテ行フニ於テハ不誠實ノ申告百出シ其ノ真相ヲ調査スルコト頗ル困難ナル爲課税ノ不衡平ヲ免ルルコト能ハサルヘシ

(ハ) 夏期ニ於ケル清涼飲料ノ飲用ハ衛生上ヨリ觀ルモ獎勵スヘキコトナルヲ以テ課税セサルヲ可トス

然レトモ清涼飲料ニ對シテハ左記理由ニ依リ課税スルヲ相當ト認ム

(イ) 清涼飲料ハ一種ノ贅澤品ナルヲ以テ性質上課税物件トシテ適當ナリ從テ歐米諸國ニ於テモ課税セルモノ多ク殊ニ我國ニ於テハ近時著シク其ノ消費高ヲ増加シ尙將來漸増ノ趨勢ニ在ルヘキヲ以テ此ノ際相當ノ課税ヲ爲スヲ可トス

(ロ) 現在醬油、砂糖ノ如キ生活上ノ日用品ニスラ課税セル以上此等ノモノトノ權衡上ヨリ見ルモ課税スルヲ相當トスルノミナラス清涼飲料ハ往々麥酒ニ代用セララル場合アルヲ以テ麥酒ニ對スル補充税トシテモ課税ノ必要アリ

(ハ) 反對論者ハ清涼飲料ノ課税ヲ當業者ノ申告ニ依リテ行フニ於テハ課税ノ衡平ヲ失フコトナルカ故ニ不可ナリト謂フト雖モ豫メ製造者ヨリ製造方法ヲ申告セシメ其ノ營業ニ支障ヲ與ヘサル程度ニ於テ原料、製品、製造ニ關スル諸帳簿等ノ検査ニ依リテ製造場ニ對シ直接検査監督ヲ爲スト同時ニ一面原料ノ買入先並製品ノ販賣先ニツキ間接ノ取締ヲ爲ス等製造場ノ内外ニ涉リ系統的取締ヲ爲スニ於テハ脱税ノ防止ハ必スシモ不可能ナラス從テ甚タ課税ノ衡平ヲ失フカ如キ虞ナシ

(ニ) 反對論者ハ課税範圍ノ不明確ニ付キ非難スルモ右ハ含有炭酸量ニ依リ區分スレハ明確ニシテ炭酸瓦斯ヲ含マサルモノヲ除外スルモ何等不權衡ナルコトナシ又夏期ノ飲料トシテ清涼飲料ヲ獎

勵スヘシト云フカ如キハ必シモ首肯シ難ク或種ノ又ハ古キ清涼飲料等ニ在リテハ却テ普通飲用
 水ヨリモ有害ナルコトアリ尙一步進メテ言ハハ課税ノ影響トシテ營業上ノ自然淘汰行ハレ業體
 確實、品質佳良ナルモノ存續シ爲ニ衛生上ヨリ見テ却テ好結果ヲ來スコトアリ得ヘシ
 (ホ) 清涼飲料ノ製造高ハ逐年増加ノ趨勢ニ在ルヲ以テ課税當時ニ於テハ假令多額ノ收入ヲ期シ能ハ
 ストスルモ漸次其ノ收入額ハ増加スルニ至ルヘク好箇ノ財源タルヲ失ハス

丁 改正セサルモノ

◇取引所税

取引所税ハ現行ノ通据置クコト

(理由)取引所税法ニ付テハ最近取引所法ノ改正ニ伴ヒ既ニ相當ナル改正ヲ加ヘラレタルヲ以テ此ノ際更
 正ヲ加フル必要ナシト認ム

◇骨牌税

骨牌税ハ現行ノ儘存置スルコト

(理由)骨牌税ハ其ノ收入額三十萬圓内外ニ過キササルヲ以テ税制整理ノ點ヨリ考フレハ斯カル小額ノ税種ハ
 國税トシテ存置スルノ價值無キカ如シト雖モ骨牌ニ依ル普通ノ娛樂ハ禁止スヘキ程度ノモノニ非ルモ

其ノ使用方法ニ依リテハ社會風教上忌ムヘキモノニ屬スルノミナラス大體ニ於テ奢侈的物件ト認メラ
 ルルヲ以テ之ニ課税スルヲ相當トスヘク其ノ税額ノ僅少ナレハトテ廢税ノ理由ト爲スニ足ラサルモノ
 ト認ム

戊 其ノ他新税トシテ調査シタルモノ

◇酢税課否ニ關スル調査

酢ニ對シテハ課税セサルコト

(理由)酢ニ對シ左記方法ニ依リ課税スヘシトノ説ヲ爲ス者アリ

- 一 酢(食醋、醋酸)ノ製成ヲ終リタル時其ノ造石數ヲ査定シタル上一石ニ付五圓ノ造石税ヲ課スルコト
 - 二 輸入ニ係ル酢ニ對シテハ一石五圓ノ引取税ヲ課スルコト
 - 三 造石税金ハ一定納期ヲ定メテ之ヲ徴收スルコト
 - 四 外國ニ輸出シ又ハ工業用ニ供シタル酢ニ對シテハ其ノ造石税ヲ下戻スコト
 - 五 徵税ニ關スル取締等ノ規定ハ大體酒類其ノ他間接税ニ關スル規定ヲ準用スルコト
- 酢ニ課税スルヲ可トスル理由左ノ如シ

- 一 現在酒類、醬油、砂糖ノ如キ日用品ニ對シ總テ課税シツアルヲ以テ均シク調味料タル酢ニ對シテモ適當ノ課税ヲ爲スヲ相當トス
- 二 各家庭ニ使用スル酢ノ量ハ極メテ少量ニ過キサルカ故ニ課税ハ格別消費者ニ苦痛ヲ與フルモノニアラス
- 三 近來酒精又ハ醪(其ノ實質ハ獨酒ト同一ナリ)ヲ原料トシ酢ヲ製造スル者増加シタルカ此等ノモノニ對シテハ現在ニ於テモ相當取締ヲ爲シツアルヲ以テ之ニ課税スルカ爲ニ生スル手數ト經費ノ増加ハ僅少ナリ

然レトモ酢ニ對スル課税ハ左記理由ニ依リ不可ナリト認ム

- 一 酢ノ造石高ハ僅ニ三十三萬石ニ過キス而モ其ノ中二萬石ハ輸出又ハ工業用ニ供セラルルヲ以テ此等ニ對シテハ免税ノ必要アリ而シテ食用三十一萬石ニ對シ一石五圓ノ課税ヲ爲スモ其ノ收入ハ僅カニ百五十餘萬圓ニ過キサルカ故ニ新税トシテノ價値ニ乏シ
- 二 酢ハ其ノ含有酸量ニ多大ノ懸隔アリテ普通ノ食醋ノ如ク四度内外ニ止マルモノト醋酸又ハ酢ノ素ノ如ク十九度以上氷醋酸ニ在リテハ九十度以上ニ上ルモノトアルカ故ニ同一税率ヲ以テ課スルニ於テハ甚シク負擔ノ不權衡ヲ來スヘク若シ平衡ニ課税セント欲セハ各酢ノ含有酸量ヲ標準トシテ課税セサルヘカラスト雖モ斯克テハ食醋ニ對シテ普通醋酸ハ約五倍、酢ノ素ハ七倍、氷醋酸ノ如キニ至リ

テハ約二十五倍ノ税率ト爲ササルヘカラスシテ此等ノモノハ甚タ重税トナルヲ以テ實行困難ナリ

- 三 酢ノ工業用ニ供セラルルモノハ染色用、顔料用、昆布製造用、藥品其ノ他多岐ニ涉リ而モ其ノ一回ノ使用量極メテ少量ナルカ故ニ之ニ對スル戻税ハ容易ナラサル手數ニシテ多額ノ經費ヲ要ス而モ手數ノ省畧上工業用酒精ノ如ク一回ノ使用量一石以上ノモノニ限り戻税スルコトト爲サンカ工業用酢ハ一回ノ使用量少キカ故ニ殆ト戻税ノ恩典ニ浴シ得サルコトトナルヘク自然工業ノ發達ヲ阻礙スルニ至ルヘシ

(附表)

酢稅收入額調

施行年度	課税額	税率	税額	徵稅費	差引實收額
初年度	三〇九、四七五	一石五圓	一、五四七、七五	一〇三、六〇	一、四四三、七五
平年度	ク	ク	ク	一〇一、三三	一、四四六、一五

備考

課税高ノ算出基礎左ノ如シ

年度	製造高	輸移入高	輸移出高	工業用	差引課税高	備考
大正八年	三三、一三三	一石	三、五三六	?	一	
同九年	三九、〇九	?	一五、九六〇	一〇、九六	一	
平均	三〇、一五		九、七四	一〇、九六	三九、四五	課税ニ因ル消費減無キモノト看做ス

◇燐寸消費稅課否ニ關スル調査

燐寸ニ對シテハ課稅ヲ爲ササルコト

(理由)

- 一 燐寸ハ其ノ製造場數百七十四ヶ所ニ過キス而モ内地消費價額ハ六百八十萬圓ニ上ルヲ以テ之ニ對シ相當課稅ヲ爲スヘシトスル者アルモ燐寸ハ生活上ノ必需品ナルカ故ニ新ニ課稅スルハ妥當ナラサルコト
- 二 假ニ之ニ對シ從價ノ一割ヲ課スルコトトセハ之カ課稅ニ因ル消費減ヲ一割ト見込ミ歲入僅ニ六十萬圓ニ過キサルコトトナリ又若專ラ財政上ノ收入ヲ得ムカ爲ニ從價五割ノ高稅率ヲ課スルトセハ其ノ消費減ヲ二割ト見積リ歲入二百七十萬圓ヲ得ヘキモ生活上ノ必需品ニ對シ斯ル苛重ノ稅率ニ依リ課稅スルカ如キハ戰時其ノ他非常ノ場合ノ外之ヲ避クヘキモノナルコト
- 三 本邦ノ燐寸ハ全生産額三千五百萬圓ノ内、外國ニ輸出セララルモノ二千八百萬圓此ノ割合八割強ニ上リ實ニ本邦重要輸出品ノ一タリ而モ内地消費ニ屬スルモノハ價額六百八十萬圓全生産額ノ二割弱ニ過キスシテ若シ内地消費品ノミニ對シ課稅ヲ爲スコトトセハ勢ヒ大部分ノ輸出免稅品ニ對シテモ相當ノ取締ヲ加フルノ必要ヲ生スヘク爲ニ外國市場ニ於テ他國製品トノ競争激甚ナル斯業ヲシテ自然取引ノ敏活ヲ缺キ輸出貿易ヲ阻害スルニ至ルヘキコト

四 尙燐寸ニ付テハ外國ニ於テ或ハ專賣制度ヲ採用スル所アルヲ理由トシテ之カ專賣ヲ主張スルモノアリト雖モ元來燐寸ハ生活上ノ必需品タルノ關係上財政上ノ收入ヲ目的トシテハ今遽ニ之ヲ實施シ得サルノミナラス強テ之ヲ專賣ト爲サムトスルモ第三項ニ於テ述ヘタルカ如ク年産額ノ約八割以上ハ外國ニ輸出セララルモノニ係ルヲ以テ商機ヲ尙フヘキ海外貿易ヲ制肘スルコト甚大ナルヘク到底實行不可能ナルヘキコト

(參照)

燐寸製造場數及生産額調

年次	場數	内地消費高	外國輸出高	計
大正七年		六、一九四、三五四	二七、六七、六六八	三三、八六、〇三三
同八年		七、八四九、八三七	三、七三六、六六二	一一、五八六、〇九九
同九年		六、四三三、一一四	二五、五七四、六六一	三二、〇〇八、〇七五
平均		六、八九、一〇一	二六、三七〇、〇〇〇	三二、四六、一〇一
		大正十年七月現在		
		一七		

◇其ノ他各種ノ新稅ニ關スル調査

以上調査シタル新稅ノ外尙新財源トシテ一應ノ研究ヲ爲シタルモノヲ列舉スレハ左ノ如シ而シテ右ハ孰レモ各項記載ノ事由ニ依リ國稅トシテハ採用スルノ價値ナキモノト認メ詳細ナル調査ヲ爲スコトヲ見合セタ

税目

一、不動産移轉税

課税方法
一、賣買譲渡等ニ因ル不動産ノ移轉ニ對シ課税スルコト

新ニ課税スルヲ否トスル理由

一、課税標準トシテハ移轉シタル不動産ノ價格ヲ標準トスルノ外ナキヲ以テ現行登録税ト重複課税ノ嫌アルコト
二、動産ノ移轉ニ對シテハ課税スルコトナキカ故ニ課税上ノ權衡ヲ得サルコト

三、本税ハ既ニ地方税トシテ主要ノ財源トナリ居ルヲ以テ之ヲ國税ニ編入スルコトニ付テハ大ニ考慮ヲ要スヘキコト

(參照)

大正九年度地方税トシテ賦課シタルモノ

府	縣	市	町	村	計
四百十三萬三千圓	五百三十七萬一千圓	九百五十萬四千圓			

二、土地増價税

一、所有權移轉ノ場合ニ於テ讓渡價格ヲ取得價格ニ超過スル價額ニ對シ課税スルコト

一、取得價格及讓渡價格ノ調査困難ナルコト
二、本税ノ適用ヲ受クルハ事實上市街地及其ノ附近ノ土地ニ限ラルルカ故ニ地方税ノ財源トシテハ可ナルヘキモ國家ノ一般財源トシテハ不適當ナルコト

三、庭園税

一、庭園ヲ所有シ又ハ占有スル者ニ課税スルコト
二、庭園ノ面積ヲ以テ課税ノ標準トシ等級ヲ設ケテ課税ヲ爲スコト

一、庭園トシテ課税スヘキ範圍ヲ定ムルコト困難ナルコト
二、地方ニ依リ相當ノ等級ヲ設ケテ課税スルノ要アルモ之カ標準ヲ定ムルコト至難ナルコト

四、壯丁税

一、非役壯丁ニ對シ課税スルコト
二、徵兵年齡ニ達シタル全年ヨリ一定ノ年限之内課税ヲ爲スコト

一、兵役ニ服セサル者ハ納税ニ依リ兵役義務ヲ盡シタリトノ思想ヲ生シ國民皆兵主義ノ美風ヲ破壞スルニ至ルヘキコト
二、兵役義務ハ任意ニ之ヲ免ルヘキモノニアラサルヲ以テ國家カ免役者ニ對シ課税ヲ爲スハ不當ナルコト
三、若シ課税スルト爲スモ負擔力ノ如何ニ依リ課税ヲ斟酌スルコト困難ナルハ勢ヒ人頭税トナルノ嫌アルコト

(參照)

毎年ノ徵兵適齡者數約五十二萬人ノ内課税ヲ受クヘキ人員ヲ其ノ七割ト見込ミ一ケ年三十六萬四千人トナル

一、立法上課税品目ヲ選定スルコト容易ナラサルノミナラス其ノ用途形狀等ニ依リ甚シク價格ヲ異ニスルモノアリ從テ課税最低價格ヲ決定スルコト至難ナルコト
二、奢侈品又ハ奢侈行爲ノ總テヲ網羅スルコト至難ニシテ爲ニ課税ノ公平時期シ難キコト

三、美術品ノ大部分ニ課税スルノ結果トナリ爲ニ美術工藝ノ發達ヲ阻礙スルコト
四、脱税ノ機會多ク其ノ取締頗ル困難ナルコト

五、課税方法ハ現金納付又ハ印紙納付ノ何レニ依ルトスルモ簡易確實ニ徵税ヲ爲シ得サル爲甚シク取引ヲ阻礙スヘシ

六、本税ニ付テハ戰時中外國ニ於テ之ヲ採用セシ向アリシモ其ノ後漸次廢止セラルルノ傾向アルノミナラス徵税ノ缺點アルヲ以テ非常ノ場合ノ外平時ニ於テ之ヲ採用スルノ價値ナキコト

一、娛樂興行ト學術講演等トノ分界ヲ立ツルコト困難ニシテ課税範圍明確ナラサルコト
二、正確ナル徵税ヲ爲スコト頗ル困難ナルノミナラス各種ノ興行ハ簡單ナル設備ヲ以テ隨所ニ行ハルルカ故ニ之ニ對シ公平ナル課税ヲ爲スハ至難ナルコト

三、本税ハ地方ノ狀況ニ依リ地方税トシテ適當ナル課税ヲ爲サシムルヲ相當トスルコト

五、奢侈税

一、貴金屬、寶石、高等織物、自動車、馬車等ノ物件ノ課税最低價格及觀覽、宴會等奢侈的行爲ノ課税最低金額ヲ設ケテ之レニ超過スルモノニ課税スルコト

一、立法上課税品目ヲ選定スルコト容易ナラサルノミナラス其ノ用途形狀等ニ依リ甚シク價格ヲ異ニスルモノアリ從テ課税最低價格ヲ決定スルコト至難ナルコト
二、奢侈品又ハ奢侈行爲ノ總テヲ網羅スルコト至難ニシテ爲ニ課税ノ公平時期シ難キコト

三、美術品ノ大部分ニ課税スルノ結果トナリ爲ニ美術工藝ノ發達ヲ阻礙スルコト
四、脱税ノ機會多ク其ノ取締頗ル困難ナルコト

五、課税方法ハ現金納付又ハ印紙納付ノ何レニ依ルトスルモ簡易確實ニ徵税ヲ爲シ得サル爲甚シク取引ヲ阻礙スヘシ

六、本税ニ付テハ戰時中外國ニ於テ之ヲ採用セシ向アリシモ其ノ後漸次廢止セラルルノ傾向アルノミナラス徵税ノ缺點アルヲ以テ非常ノ場合ノ外平時ニ於テ之ヲ採用スルノ價値ナキコト

一、娛樂興行ト學術講演等トノ分界ヲ立ツルコト困難ニシテ課税範圍明確ナラサルコト
二、正確ナル徵税ヲ爲スコト頗ル困難ナルノミナラス各種ノ興行ハ簡單ナル設備ヲ以テ隨所ニ行ハルルカ故ニ之ニ對シ公平ナル課税ヲ爲スハ至難ナルコト

三、本税ハ地方ノ狀況ニ依リ地方税トシテ適當ナル課税ヲ爲サシムルヲ相當トスルコト

六、娛樂税

一、娛樂興行ニ對シ等級ヲ設ケ課税スルコト

一、娛樂興行ト學術講演等トノ分界ヲ立ツルコト困難ニシテ課税範圍明確ナラサルコト
二、正確ナル徵税ヲ爲スコト頗ル困難ナルノミナラス各種ノ興行ハ簡單ナル設備ヲ以テ隨所ニ行ハルルカ故ニ之ニ對シ公平ナル課税ヲ爲スハ至難ナルコト

三、本税ハ地方ノ狀況ニ依リ地方税トシテ適當ナル課税ヲ爲サシムルヲ相當トスルコト

目次

第一 道府縣稅

- 甲 從來ノ戸數割及之ニ代ル家屋稅ヲ廢シ賃貸價格ヲ標準トシテ課スル定率稅ノ家屋稅ヲ新設スルコト……………一八八
- 乙 市町村ノ所得稅附加稅ヲ府縣ニ委讓シ府縣ノ所得稅附加稅率ヲ現在ノ制限率ニ市町村ノ附加稅制限率ヲ加ヘタルモノマテ引上クルコト……………一九〇
- 丙 府縣稅營業稅雜種稅ヲ整理スルコト……………一九〇
- 丁 鑛業稅及砂鑛區稅ノ附加稅ヲ廢シ新ニ鑛業及砂鑛業ニ對シ府縣稅營業稅ヲ課スルコト……………一九一
- 戊 整理ノ結果ニ因ル稅額ノ増減……………一九二

第二 市町村稅

- 甲 地租及營業稅ノ附加稅率ヲ高メ且家屋稅附加稅ヲ新設スルコト……………一九三
- 乙 鑛業稅及砂鑛區稅ノ附加稅ヲ廢シ鑛業及砂鑛業ニ對スル府縣稅營業稅ノ附加稅ヲ認ムルコト……………一九四

丙 從來ノ戸數割附加税及之ニ代ル家屋税附加税ヲ廢シ主トシテ所得ヲ課税

標準トスル戸數割ヲ市町村ニ設ケ現在ノ家屋税施行地ニモ施行スルコト……………一九五

丁 戸數割ノ負擔ヲ輕減スルコト……………一九五

戊 整理ノ結果ニ因ル税額ノ増減……………一九六

我國現時ノ地方税體系ハ國税ニ對スル附加税ト國税ノ遺ス所ノ税源ニ對スル特別税ヲ以テ組成セリ而シテ其國税附加税ハ嚴重ナル制限ニ局促セラレ其特別税亦大ナル財源タル能ハス然ルニ輓近地方歳出劇増シタルカ爲之カ財源ノ涸渴ニ苦シ勢ヒ現行戸數割ノ如キ比較的良税タラサルモノニ偏重シ又ハ或種ノ營業税雜種税ノ如キ零細ナル税種ヲ涉獵シテ其ノ財源ニ充足シツツアリ此ノ如クニシテ地方税ハ全ク歳入ノ不足ニ伴ヒ或ハ増額或ハ濫設セラレ雜然トシテ其間何等脈絡系統ナク之カ整理改善ハ地方財政ノ窘窮ニ隨ヒ益々其ノ緊要ナルモノアリ

抑々地方税制ノ體系ヲ確立スルニ當リ之カ大宗タル税種ハ應能主義ニ適合シ而カモ應益主義ヲ加味シ得ル租税ヲ以テスルヲ至當トス故ニ道府縣ニ於テハ地租、家屋税及營業税ヲ中軸トシテ之ニ配スルニ所得税附加税ヲ以テ且適當ナル雜種税ヲ認ムルコトト爲スヘク市町村ニ於テハ地租、家屋税及營業税ノ附加税ヲ中樞トシテ之ニ配スルニ戸數割ヲ以テシ尙地方ノ事情ニ應シテ特別税ヲ設ケシムルヲ可トス而シテ此ノ如キ地方税ノ體系ハ他日國ノ財產税完成シ地租及營業税ヲ全ク地方ニ委讓シタル場合ニ於テ完備セシムルコトトシ此ノ經過的時期ニ於テハ根本主義ニ順應スル方針ヲ以テ地方税ノ整理ヲ行フヲ適當ナリト信ス故ニ此際地租及營業税カ財產税ノ新設ニ依リ輕減セラレタル分ハ之ヲ地方財源ニ委讓シ是ニ依リテ生スル餘裕ヲ以テ如上ノ根本方針ニ從ヒ地方税中當ニ廢減スヘキ税種ノ整理ニ充ツルヲ可ナリト認ム

國ニ一般財產税ヲ起シ國税トシテ輕減シタル地租及營業税ヲ更ニ地方税トシテ徵收スレハ財產税ヲ納ムル

者ノ土地及營業ハ負擔加重セラルルコトナルヘシト雖モ現行地方稅中ニハ整理ノ急ヲ要スルモノ尠カラサルヲ以テ此際土地及營業ノ負擔ノ加重ハ姑ク之ヲ忍ビ以テ地方稅ノ整理ヲ斷行スルヲ可トス
上述ノ方針ノ下ニ以下各項ノ如ク地方稅整理ヲ行ハントス

第一 道府縣稅

甲 從來ノ戶數割及之ニ代ル家屋稅ヲ廢シ賃賃價格ヲ標準トシテ課スル定率稅ノ家屋稅ヲ新設スルコト

(理由)現行戶數割ハ府縣ニ於テ直接個人ニ賦課セス一先之ヲ市町村ニ配賦シ各個ノ賦課額ハ市町村會ノ決議ニ一任ス

元來地方稅トシテ各人ノ所得ニ對シテハ所得稅附加稅アリ土地ニ對シテハ地租附加稅及段別割アリ營業ニ對シテハ營業稅附加稅、府縣稅營業稅及雜種稅アリ其他各種ノ物件行爲收入等ニ對シテモ課稅シ稅網廣ク各般ニ行渡レルニ拘ラス猶且戶數割ノ存スル所以ノモノハ蓋シ其ノ初メ地方團體カ各種ノ稅源ニ其ノ收入ヲ求メテ尙足ラサル場合ニ於テ各人ハ齊シク其ノ分ニ應シ自治體ニ對シ出捐スルコト當然ナリト云フ觀念ニ基クナルヘシ故ニ戶數割ハ人ノ生活狀態等ヲ斟酌シテ其ノ資力ヲ測リ之ニ應シ賦課スルヲ以テ本則トス然ルニ此ノ如キハ府縣ノ如キ區域ノ廣キ管内ヲ通シテ公平ニ行ハレ難キハ勿論ナルヲ以テ直接課稅ノ方法ニ依ルコト能ハス勢ヒ二段課稅ノ方法ヲ採ルノ外ナシ而シ

テ之ヲ單ニ戶數ニ應シ各市町村ニ配賦スルハ固ヨリ不公平ナルヘク去リトテ市町村ヨリ各個人ノ資力算定ノ資料ヲ調査申告セシムルコトトセハ各市町村競フテ課稅標準又ハ其ノ資料ヲ內輪ニ見積リテ申告シ到底配賦公平ナルヲ得ス又市町村ノ貧富ニ應シ之ニ等級ヲ附スル如キモ理論上及實際上不適當ナリ若シ又郡費分賦ノ例ニ倣ヒ各市町村ノ直接國府縣稅賦課額ヲ戶數ト合セテ標準ト爲シ戶數割ヲ配賦スルモ貧富ノ懸隔アル市町村ノ資力ニ適應スル配賦ヲ行フコト殆ト不可能ナリトス從テ此ノ如キ配賦ヲ基礎トシタル戶數割ハ結局府縣內各人ノ資力ニ應シタル課稅タルコト能ハサルナリ此ノ如ク本質上府縣稅トシテ負擔ノ公平ヲ期シ得ラレサル稅ハ之ヲ廢止シテ寧ロ市町村稅ト爲シ市町村ヲシテ其ノ住民ノ生活狀態等ヲ斟酌シ能ク其ノ資力ニ應シテ課稅セシムルコトト爲スヲ適當ナリト認ム

尙戶數割ヲ廢止スルモノトセハ從來戶數割ニ代ヘテ一部ノ地方ニ課セラレタル家屋稅モ亦其儘存置スヘキモノニ非サルヘシ

然レトモ土地及營業ハ地方稅ヲ課セラルルニ拘ラス獨リ家屋ニ對シ未ダ廣ク一般ニ課稅セラルルコトナキハ彼此均衡ヲ失セルモノト云ハサルヘカラス故ニ從來ノ家屋稅ノ如ク戶數割ニ代ヘテ課スルモノハ之ヲ廢スルモ新ニ定率稅トシテ家屋稅ヲ設クルヲ適當ナリト認ム農村ノ實情ハ家屋稅ノ課稅標準ノ查定困難ナルモノアランモ國ニ於テ一般財產稅ヲ施行セハ之ヲ力調査ト相俟テ其困難ヲ排除シ

得ヘキナリ

一九〇

乙 市町村ノ所得稅附加稅ヲ府縣ニ委讓シ府縣ノ所得稅附加稅率ヲ現在ノ制限率ニ市町村ノ附加稅制限率ヲ加ヘタルモノマテ引上クルコト

(理由)戶數割ハ府縣稅トシテ已ニ之ヲ廢シ土地家屋營業稅ニ對スル課稅ヲ其中軸トシ之ニ配スルニ所得稅附加稅ヲ以テスルコトト爲スモ現在府縣ノ所得稅附加稅ハ其率頗ル低キヲ以テ府縣稅ニ於ケル物稅ニ對スル人稅ノ割合均衡ヲ得ス然ルニ一方ニ於テ市町村ハ人稅タル戶數割附加稅ノ巨額ニ達セルニ加ヘテ所得稅附加稅ヲ課スルヲ以テ人稅ノ物稅ニ對スル割合過大ニ失セル嫌アルカ故ニ市町村ノ所得稅附加稅ヲ廢シテ其ノ人稅ノ割合ヲ低下シ他ノ一方ニ於テ府縣ノ所得稅附加稅ノ率ヲ現在ノ附加稅率ト市町村ノ附加稅率トヲ加ヘタル程度迄高メテ戶數割廢止ニ依ル人稅ノ減少ヲ補フヲ可トス此ノ如クセハ亦以テ府縣稅制ニ一層伸縮性ヲ帶ハシムルヲ得ヘキナリ

丙 府縣稅營業稅雜種稅ヲ整理スルコト

(理由)元來府縣ノ營業稅ハ國稅トシテ之ヲ課スルニハ餘リニ小營業ナリトシテ遺棄シタルモノニ課スルモノナルカ故ニ能フヘクンハ其ノ總テヲ廢スルコト社會政策上ヨリ觀ルモ亦至當ナルヘシ少クトモ其中比較的大ナル營業者ニ對スル課稅ヲ除キ職工稅其他細民ニ課スル稅ノ如キハ之ヲ廢スルヲ當然ノコトナリト信ス(其ノ廢止見込ノモノ別表ノ通)又雜種稅ハ營業稅的性質ヲ有スルモノアリ物

件行爲等ニ課スルモノアリテ多種多樣ニ互リ中ニハ演劇興行稅ノ如キ自動車稅ノ如キ適當ナル稅種ナキニ非スト雖又細民ニ苦痛ヲ與フルモノモ少ナカラス此ノ如キ反社會政策的稅種ハ之ヲ廢止スルト共ニ雜然タル稅制ヲ整理シテ秩序アルモノヲシメサルヘカラス(其ノ廢止ノ見込ノモノ別表ノ通)尙營業稅雜種稅中勞働者又ハ主トシテ細民ニ課スルカ如キモノハ之ヲ廢止スル趣旨ヲ以テ營業稅雜種稅ノ稅目ヲ限定シ又雜種稅中其ノ稅質營業稅ナルモノハ之ヲ營業稅ニ組替フルヲ可トス

丁 鑛業稅及砂鑛區稅ノ附加稅ヲ廢シ新ニ鑛業及砂鑛業ニ對シ府縣稅營業稅ヲ課スルコト

(理由)鑛業稅ハ鑛產稅ト鑛區稅トニ分タル鑛區稅カ特許ニ對スル報償金ノ性質ヲ有スルハ論ナカルヘク鑛產稅モ亦半ハ同性質ヲ有スルヲ爭ハス然レトモ又同時ニ其半ハ營業稅的性質ヲ帶ヘルモノト認メサルヲ得ス故ニ鑛區稅ト鑛產稅ノ半トハ之ヲ國稅トシテ存シ其營業稅的性質ヲ帶ヘル他ノ半ハ國稅營業稅ヲ地方ニ委讓シタルカ如ク之ヲ地方ニ委讓スルヲ相當ナリト認ム
既ニ報償金ノ性質ヲ帶フル部分ノミヲ鑛業稅トシテ國稅ニ留保シタル以上ハ地方ニ於テ之ニ附加稅ヲ課スルヨリモ鑛業ノ營業タル事實ニ對シ府縣稅トシテ營業稅ヲ設置スルヲ至當トス而シテ其ノ稅額ハ之ヲ現在府縣ノ鑛業稅附加稅額ノ範圍ニ止メ鑛業稅ノ地方ニ委讓セラレタル部分ハ之ヲ國稅營業稅同様市町村ニ與フルヲ可トス
砂鑛區稅附加稅モ亦鑛區稅附加稅ニ準シテ整理スルヲ可トス

一九一

戊 以上ノ趣意ヲ以テ道府縣稅ヲ整理セハ府道縣ニ於テ失フ稅額左ノ如シ

(大正十年度當初豫算)

戸數割廢止ノ爲 三九、二五一、一六八圓
 家屋稅廢止ノ爲 七、七三三、七九三圓
 營業稅整理ノ爲 一、四六一、六八四圓
 雜種稅整理ノ爲 五六四、六一六圓
 猶家屋稅ヲ新設セハ私法人建物稅ハ家屋稅中ニ包含セラルルコトナルヲ以テ雜種稅トシテハ廢止セラル而シテ其ノ額 一、五四〇、九〇五圓

計

五〇、五五二、一六六圓

註 廢止セラルル鑛業稅及砂鑛區稅ノ附加稅額ト鑛業及砂鑛業ニ對スル新設ノ營業稅額トハ相等シ

カラシムルコト、爲セルヲ以テ府縣稅整理ノ計算上ヨリ之ヲ除ク

右失フ所ノ財源ノ缺陷ハ先ツ之ヲ道府縣ノ所得稅附加稅率ノ引上ニ依ル增收額三五、五五九、三八二圓ヲ以テ之ニ充テ次ニ其殘額一四、九九二、七八四圓ハ之ヲ新設スヘキ家屋稅ヲ以テ充テントス即家屋稅ハ建物賃賃價格八九一、七二九、九五四圓ノ百分ノ一、六八一三ノ稅率トナルヘシ但各府縣ニ就キテ見レハ整理セ

ントスル府縣稅額ト所得稅附加稅ノ增收額トノ差額ニ大小アルノミナラス課稅標準タルヘキ建物ノ賃賃價格ニモ亦相異アルヲ以テ從テ家屋稅ノ稅率ハ府縣ニヨリ同シカラサルコト勿論ナリトス
右整理ノ結果道府縣ノ重ナル稅ノ收入額左ノ如シ

地租附加稅 七三、五六二、四九〇
 家屋稅 一四、九九二、七八四
 營業稅附加稅 一六、七四二、〇八九
 營業稅 九、三五五、四四六
 所得稅附加稅 三九、二三五、四一一圓
 雜種稅 三二、三三七、八〇六圓

(註) 右計數ノ内容ハ後ニ添付セル計算書參照ノコト

而シテ道府縣ハ其稅制ヲ整理スルニ當リ地方ニ委讓セラレタル地租及營業稅ニ依ルコトナクシテ能ク其ノ目的ヲ達シ得ルカ故ニ其ノ委讓ヲ受クヘキ兩國稅額ハ之ヲ市町村ノ整理財源ニ充ツルコトヲ得

第二 市町村稅

甲 地租及營業稅ノ附加稅率ヲ高メ且家屋稅附加稅ヲ新設スルコト

(理由)前述ノ如ク地租及營業稅ノ委讓額ハ道府縣ニ於テ其稅制整理ニ充テサルヲ以テ市町村ハ之ヲ收メテ地租及營業稅ノ現行附加稅率ヲ高ムルコトトス猶又市町村ニ於テ地租及營業稅ノ附加稅ヲ賦課スル以上ハ之ト權衡ヲ保ツカ爲メ道府縣ニ新設スヘキ家屋稅ニ附加稅ヲ設クルヲ至當トス其稅率ハ府縣稅ノ百分ノ五十ヲ以テ相當ト認ム

此ノ如クニシテ此三附加稅ヲ整ヘ以テ市町稅體系ノ中軸タルヘキ素地ヲ作り以テ他日國ニ於テ一般財產稅完成シ地租及營業稅ノ全部ヲ地方ニ委讓セラレル際ニ於ケル市町村稅體系ノ完備ニ一步ヲ進ムルヲ要ス

乙

鑛業稅及砂鑛區稅ノ附加稅ヲ廢シ鑛業及砂鑛業ニ對スル府縣稅營業稅ノ附加稅ヲ認ムルコト
(理由)國稅ニ存置シタル鑛業稅ニ附加稅ヲ課スルノ適當ナラサルコト府縣稅ニ付述ヘタルカ如シ仍テ市町村ノ鑛業稅附加稅モ亦之ヲ廢シ新ニ設ケタル鑛業ニ對スル府縣稅營業稅ニ附加稅ヲ課スルコトトス而シテ今其ノ率ヲ幾何ナラシムヘキカヲ考フルニ鑛業地ノ市町村ハ鑛業ノ發展ニ伴ヒ多數ノ坑夫來住シテ漸次義務教育費衛生費等著シク増大シ其財政窮迫ノ狀態ニ在ルヲ以テ鑛業營業稅ノ附加稅ノ程度ハ現在市町村カ鑛業附加稅トシテ徵收セルモノニ加フルニ國稅鑛業稅ニ於テ輕減シタル稅額ノ範圍マテ擴張シ以テ市町村財政ノ緩和ヲ圖ルニ資セントス
砂鑛區稅附加稅モ亦之ヲ廢シ砂鑛業ニ對スル府縣稅營業稅ノ附加稅ト爲スヘキコト勿論トス

丙

從來ノ戶數割附加稅及之ニ代ル家屋稅ノ附加稅ヲ廢シ主トシテ所得ヲ課稅標準トスル戶數割ヲ市町村ニ設ケ現在ノ家屋稅施行地ニモ施行スルコト
(理由)戶數割ハ資力ニ對シ之ヲ課スルヲ可トスルモノナルヲ以テ府縣ノ如キ廣キ區域ニ施行スルニ適セサルコト前ニ述ヘタルカ如シト雖之ニ多少ノ修補ヲ加ヘテ之ヲ市町村區稅トセハ其ノ施行區域モ狹小ナルカ故ニ能ク各人ノ資力ヲ周密ニ調査シテ課稅シ得ヘシ故ニ之ヲ市町村稅トシ所得ヲ主タル課稅標準トシテ課スルモノトシ以テ地租家屋稅及營業稅ノ附加稅ニ配スルハ市町村稅體系上適當ナリト信ス
(註) 從來市町村ニシテ戶數割附加稅ニ代ヘ家屋稅附加稅ヲ賦課シ來リタルモノニ在リテハ之ヲ廢シテ戶數割ヲ賦課スルコトト爲スモ尙新設スヘキ府縣稅ノ家屋稅附加稅ヲ課スルコトハ已ニ述ヘタルカ如シ

丁

戶數割ノ負擔ヲ輕減スルコト
(理由)地租及營業稅附加稅ノ増率ニ依ル增收額及新設スヘキ家屋稅附加稅額ハ之ヲ市町村ノ新財源トシ先ツ以テ市町村ノ所得稅附加稅ヲ道府縣ヘ移シタル財源ノ缺陷補填並道府縣稅營業稅、雜種稅ノ整理稅目ニ對スル附加稅ノ減收補填ニ充テサルヘカラス
而シテ次ニ之カ處理如何ヲ考フルニ市町村ノ戶數割ヲ輕減スルヲ相當ナリト信ス蓋シ現時市町村ノ戶數割附加稅ハ一億七千九百萬圓ノ巨額ニ達シ市ヲ除キ町村ノミニ付テ之ヲ見レハ租稅收入ノ七割

三分ヲ占ムルノ状態ナルカ故ニ如何ニ戸數割ヲ良稅ニ改ムルモ町村稅ノ大部分ヲ戸數割ニ求メントスルカ如キハ各人ノ擔稅力ニ應スル所以ニアラサルノミナラス將來市町村稅ノ體系ヲ整フル上ニモ必ス其ノ輕減ヲ計ラサルヘカラス

戊 以上整理ノ結果市町村ノ重ナル租稅收入額左ノ如シ

地租附加稅	五五、九五九、八二〇
家屋稅附加稅	七、四九六、三九二
國稅營業稅附加稅	四一、〇一四、二二八
府縣稅營業稅附加稅	八、七八七、五六八
戶數割	一五三、〇八四、五〇八圓
雜種稅附加稅	一七、三二〇、八二八圓
特別稅	一九、六六二、六九三圓

以上ノ如ク道府縣ハ其ノ新設シ又ハ増率シタル稅ニ依ル財源ヲ以テ其ノ整理ヲ行ヒ市町村ハ地租及營業稅ノ委讓額ヲ以テ主トシテ戸數割ノ輕減ヲ計リ他日國ニ於テ財產稅完成シタル時ヲ俟テ戸數割ノ稅額ヲ地租家屋稅營業稅附加稅ノ稅額ト同類以下マラシメ以テ其ノ租稅體系ノ整備ヲ期スヘキモノトス

(參照)

(大正十年度豫算)

道府縣稅營業稅中廢止見込課目

露店ニ對スル營業稅

四八、七五八圓

(福岡縣ニ於ケル露店稅ノ物品販賣業稅ニ對スル割合二分三厘五毛ナルヨリ推算)

職工	一、一五七、二七九圓
行商	一三五、四三六圓
炭燒業	六一、四三六圓
紙漉業	九、四六五圓
木賃宿業	九、七八九圓
賃機織業	二〇、四六四圓
賣藥請賣業	六、五一五圓
賣藥行商業	五、六七七圓
賃撚絲業	四、三九九圓
線絲業	七五七圓
蹄鐵工業	六七六圓
牛馬宿業	六三〇圓

仲仕業	二六四圓
渡船工業	五〇圓
塗物業	三三圓
修繕業	二一圓
日雇業	一四圓
飛脚業	一〇圓
手傳業	六圓
柚業	五圓
計	一、四六一、六八四圓
雜種稅中廢止見込課目	
牛馬	五〇七、二六七圓
運送夫業	三二、八〇一圓
賃取牛馬	八、八五九圓
仲仕	五、四二五圓
荷積車前輓牛馬	四、三八四圓

筏乘	二、六五二圓
竹木流下業	一、五七〇圓
船乘	九六四圓
賃駕籠	三〇九圓
規眼鏡	一八二圓
易占	一〇五圓
死畜取扱人	七九圓
屠手	一九圓
計	五六四、六一六圓

本整理案ニ基ク計算内容即左ノ如シ

(イ) 道府縣稅ノ増減

道府縣ニ於テ失フ稅額	三九、二五一、一六八圓
戶數割廢止額	七、七三三、七九三圓
家屋稅廢止額	一、四六一、六八四圓
營業稅整理額	

雜種稅整理額

計

二、一〇五、五二一圓
五〇、五五二、一六六圓

右失フ所ノ財源ノ缺陷ハ道府縣ノ所得稅附加稅率引上ニ依ル增收額三五、五五九、三八二圓ヲ以テ之ヲ補充シ不足額一四、九九二、七八四圓ハ新設家屋稅ノ賦課ニ依リ之ヲ補填ス
右整理ノ結果道府縣稅收入ノ狀況左ノ如シ

地租附加稅(現在通) 七三、五六二、四九〇^円

家屋稅(新設) 一四、九九二、七八四

營業稅附加稅 現在額 一六、七三三、七九一

賣藥營業稅附加稅編入額 八、二九八

一六、七四二、〇八九

九、四一九、〇六四

六七四、四二四

七二三、六四二

一、四六一、六八四

九、三五五、四四六

一一四、六五二、八〇九圓

營業稅

現在額

新設鑛業營業稅額

雜種稅ヨリ編入額

整理輕減額

所得稅附加稅

現在額

增徴額

現在額

整理輕減額

營業稅へ編入額

三、六七六、〇二九

三五、五五九、三八二

三五、一六六、九六九

二、一〇五、五二一

七二三、六四二

三九、二三五、四一一圓

三二、三三七、八〇六圓

(ロ) 市町村稅ノ増減

市町村稅ニ於テ失フ稅額

一、所得稅附加稅ノ委讓額

一、營業稅雜種稅附加稅ノ減收額

計

二七、六一五、三三九圓

二、六五〇、一八七圓

三〇、二六五、二二六圓

右失フ所ノ財源ノ缺陷ハ新設セル府縣家屋稅ノ附加稅七、四九六、三九二圓ヲ以テ之ヲ補充ス其殘額二二、七六九、一三四圓ヲ地租、營業稅及鑛業稅ノ委讓額六四、六六七、〇〇〇圓内地營業稅 三、九四、九五
鑛業稅 二、七六、〇八五ヲ以テ補充スレハ其委讓額中四一、八九七、八六六圓ノ殘餘ヲ生ス此殘餘額ハ之ヲ戶數割ノ輕減ニ充ツ

右ノ結果ニ依ル市町村稅收入ノ狀況左ノ如シ

地租附加税	現在額	三、九六四、九〇五	委讓額	三、九六四、九〇五	五五、九五九、八二〇
家屋附加税(新設)	現在額	一三、三四、〇四〇	委讓額	一三、三四、〇四〇	七、四九六、三九二
國稅營業稅附加税	現在額	二六、七六、〇八五	委讓額	二六、七六、〇八五	四一、〇一四、三二八
府縣稅營業稅附加税	現在額	一四、一〇三	委讓額	一四、一〇三	一三、二五六、〇八圓
礦業稅附加税編入額	現在額	五、九七九、一三九	委讓額	五、九七九、一三九	
礦業稅附加税編入額	現在額	二、八九六、〇〇〇	委讓額	二、八九六、〇〇〇	
礦業稅附加税編入額	現在額	四五四、八九〇	委讓額	四五四、八九〇	八、七八七、五八
雜種稅附加税ヨリノ編入額	現在額	五三、八七七	委讓額	五三、八七七	
整理輕減額	現在額	一、〇七四、三三八	委讓額	一、〇七四、三三八	
戶數割及家屋稅ノ附加稅ノ現在額	現在額	一九四、九八二、三七四	整理輕減額	一九四、九八二、三七四	一五三、〇八四、五〇八圓
整理輕減額	現在額	四一、八九七、八六六	整理輕減額	四一、八九七、八六六	
現在額	現在額	一九、四八、五五四	整理輕減額	一九、四八、五五四	現在ノ戶數割及家屋稅附加稅ノ七割八分
營業稅附加稅ノ編入額	現在額	五三一、八七七	整理輕減額	五三一、八七七	
整理輕減額	現在額	一、五七五、八四九	整理輕減額	一、五七五、八四九	

特別稅(現在通)

一九、六三二、六三圓

(ハ) 道府縣稅ト市町村トヲ通シテ地方稅ノ増減左ノ如シ

地租附加稅ニ於ケル増
 營業稅附加稅ニ於ケル増(賣藥營業稅附加稅ヲ含ム)
 家屋稅及其ノ附加稅ノ新設ニ依ル増
 所得稅附加稅ハ現在市町村ニ於テ法定制限率以下ノ課率ヲ以テ徵收セルモ府縣稅附加稅ニ移ス場合ニ於テハ制限率迄徵收スルモノトスルニ依ル増
 府縣稅營業稅及其ノ附加稅ニ於ケル増
 右合計増(礦業營業稅及其ノ附加稅ヲ含ム)
 然レトモ他方ニ於テ
 雜種稅及其ノ附加稅ニ於ケル減
 戶數割家屋稅及其ノ附加稅ニ於テ府縣稅及之ニ代フル家屋稅ヲ廢止スルニ依ル減
 市町村ノ附加稅ヲ輕減スルニ依ル減(將來設クル市町村戶數割ト差引シタル計算ヲ示ス)

賣藥營業稅附加稅ヲ廢止スルニ依ル減

一一〇四
一一一、四〇一

鑛業稅及砂鑛區稅附加稅ヲ廢止スルニ依ル減

一、一二九、三二四

右合計減

九四、九七一、四三一

即チ地方稅ノ總計ニ於テハ増減ナシ

參考

一 地租及營業稅全部委讓ノ場合ニ於ケル地方稅整理案綱領

二 右整理案ニ基ク計算

三 地租及營業稅ヲ地方稅トスル場合ニ於ケル課稅方法並國家ノ之ニ對スル監督方法

地租及營業稅全部委讓ノ場合ニ於ケル地方稅整理案綱領

甲 道府縣稅

第一 道府縣ニ於テハ地租、家屋稅及營業稅ヲ中軸トシ之ニ配スルニ所得稅附加稅ヲ以テシ且適當ナル雜種稅ヲ認ムルコト

第二 前項ノ方針ノ下ニ左ノ整理ヲ行フコト

- (一) 地租ハ賃貸價格ヲ標準トシテ課スルコトトシ從前道府縣ニ於テ賦課セル地租附加稅額ニ相當スル程度ニ於テ徵收スルコト

(二) 營業稅ハ法令ヲ以テ其ノ課稅方法等ヲ統一明定シ勞働者又ハ主トシテ細民ニ課スルカ如キ營業稅ハ之ヲ廢止シ從前道府縣ニ於ケル國稅營業稅附加稅、賣藥營業稅附加稅、府縣稅營業(整理シタル稅目ヲ除ク)並營業的性質ノ稅目ノ雜種稅額ヲ限度トシテ之ヲ徵收セシムルコト、

(三) 鑛業稅及砂鑛區稅ノ附加稅ヲ廢シ新ニ鑛業及砂鑛業ニ對シ營業稅ヲ課スルコト

(四) 從來ノ戶數割及之ニ代フル家屋稅ヲ廢シ賃貸價格ヲ標準トシテ課スル定率稅ノ家屋稅ヲ新設スルコト

(五) 勞働者又ハ主トシテ細民ニ課スルカ如キ雜種稅ハ之ヲ廢止スル趣旨ヲ以テ其ノ稅目ヲ限定シ尙雜種稅中其ノ稅質營業稅ナルモノハ之ヲ營業稅ニ組替フルコト

乙 市町村稅

第一 市町村ニ於テハ府縣稅タル地租、家屋稅及營業稅ノ附加稅ヲ中軸トシ之ニ配スルニ獨立稅タル

戶數割ヲ以テシ該戶數割ノ稅額ヲ地租家屋稅及營業稅ノ附加稅額ト同額以下ヲラシメ且雜種稅附加稅及地方ノ事情ニ依ル特別稅ヲ認ムルコト

第二 前項ノ方針ノ下ニ左ノ整理ヲ行フコト

- (一) 地租及營業稅ノ附加稅ハ現在ノ地租及營業稅(賣藥營業稅ヲ含ム)ノ委讓額ト其ノ市町村ノ附加稅額ヲ合算シタル程度迄徵收スルコト

- (一) 鑛業稅及砂鑛區稅ノ附加稅ヲ廢シ鑛業及砂鑛業ニ對スル府縣稅營業稅ノ附加稅ヲ現在國稅タル鑛業稅ノ委讓額ト其ノ市町村ノ附加稅額ヲ合算シタル程度迄徵收スルコト
- (二) 新設シタル府縣稅家屋稅ノ附加稅ヲ課スルコト
- (三) 從來ノ戶數割及家屋稅ノ附加稅ヲ廢シ戶數割ヲ市町村ノ獨立稅トシ所得ヲ主タル課稅標準ト爲シ現在ノ家屋稅施行地ニモ施行スルコト
- (四) 所得稅附加稅ヲ道府縣ニ委讓スルコト
- (五) 府縣稅營業稅雜種稅ノ整理稅目ニ對スル附加稅ハ當然消滅ノコト
- (六) 現在ノ地租、營業稅及鑛業稅ノ委讓並新設家屋稅附加稅ノ賦課ニ依リ生シタル財源ハ所得稅附加稅ノ廢止ニ依リ生シタル財源ノ缺陷ト營業稅、雜種稅ノ整理ニ伴フ附加稅ノ消滅ニ依ル財源ノ缺陷ヲ補填シ其ノ殘額タケ新設スヘキ戶數割ヲ現在ノ戶數割及家屋稅ノ附加稅ヨリ低カラシムルコト

二 本整理案ニ基ク計算即左ノ如シ

道府縣ニ於テ失フ稅額

戶數割廢止額

家屋稅廢止額

三九、二五一、一六八圓

七、七三三、七九三圓

營業稅整理額

一、四六一、六八四圓

雜種稅整理額

二、一〇五、五二一圓

計

五〇、五五二、一六六圓

右失フ所ノ財源ノ缺陷ハ道府縣ノ所得稅附加稅率引上ニ依ル增收額三五、五五九、三八二圓ヲ以テ之ヲ

補充シ不足額一四、九九二、七八四圓ハ新設家屋稅ノ賦課ニ依リ之ヲ補填ス

右整理ノ結果道府縣稅收入ノ狀況左ノ如シ

地 租	七三、五六二、四九〇	一一四、六五二、八〇九圓
家 屋 稅	一四、九九二、七八四	三九、二三五、四一一圓
營 業 稅	二六、〇九七、五三五	三二、三三七、八〇六圓
所得稅附加稅		二七、六一五、三三九圓
雜 種 稅		二、六五〇、一八七圓

市町村稅ニ於テ失フ稅額

一 所得稅附加稅委讓額

二七、六一五、三三九圓

一 營業稅及雜種稅ノ附加稅ノ整理減收額

二、六五〇、一八七圓

計

三〇、二六五、五二六圓

右失フ所ノ財源ノ缺陷ハ新設セル府縣家屋稅ノ附加稅七、四九六、三九二圓ヲ以テ之ヲ補充ス其ノ殘額
二二、七六九、一三四圓ヲ地租、營業稅及鑛業稅ノ委讓額ニ依リ補填ス
右ノ結果ニ依ル市町村稅收入ノ狀況ヲ見ルニ

地租附加稅	三七、八二四、四三〇	七一、五〇三、七八六圓
家屋稅附加稅	七、四九六、三九二	
營業稅附加稅	二六、一八二、九六四	
戶數割		一九四、九八二、三七四圓
雜種稅附加稅		一七、九一〇、二七七圓
特別稅		一九、六六二、六九三圓
夫役		一、二六六、四〇二圓

今此地租、家屋稅及營業稅ノ附加稅額ト戶數割トヲ同額ニ爲サムトセハ其ノ額各一三三、二四三、〇八
〇圓ナリ故ニ地租及營業稅ノ附加稅ヲ更ニ六一、七三九、二九四圓徵收シ其徵收額タケ戶數割ヲ輕減ス
ルヲ要ス即地租及營業稅ノ附加稅ハ之ヲ通算シ結局八四、五〇八、四二八圓ノ増徵ヲ要スルコトナリ
此増徵額ハ現在地租及營業稅(賣藥營業稅ヲ含ム)一三八、八〇二、三八六圓ノ六割八厘ニ當ル
右整理ノ結果市町村稅ノ收入狀況左ノ如シ

地租附加稅	七八、一一五、五五六	一三三、二四三、〇八〇圓
家屋稅附加稅	七、四九六、三九二	
營業稅附加稅	四七、六三二、一三二	
戶數割		一三三、二四三、〇八〇圓

(現在ノ戶數割及家屋
稅附加稅ノ六割八分)

雜種稅附加稅		一七、九一〇、二七七圓
特別稅		一九、六六二、六九三圓
夫役		一、二六六、四〇二圓

三 地租及營業稅ヲ地方稅トスル場合ニ於ケル課稅方法並國家ノ之ニ對スル監督方法

地租及營業稅ヲ地方稅ニ移ス場合ニ於テ此ノ兩稅ノ課稅方法ヲ全然各地方ノ隨意ニ一任スヘキヤ又ハ
國家ニ於テ相當ノ監督ヲ爲シ全國ノ統一ヲ圖ル必要アリヤハ單純ニ決スルヲ得スト雖之ヲ地方稅ニ委
讓スルノ理由ニ鑑ミ大體ニ於テ各地方ノ事情ニ適應シタル課稅ヲ爲サシムルヲ可トスヘシ然レトモ若
之ヲ全ク各地ノ自由ニ放任スルトキハ各地ノ土地及營業ニ對スル負擔ニ著シキ輕重ヲ生シ各地間ノ產
業ノ消長ニ關スル所少ナカラサルヘシト認メラルルヲ以テ左記各項ノ要領ニ依リ大體ノ統一ヲ圖ルノ
必要アリト認ム

- 一 兩稅共法律ヲ以テ其ノ組織及課稅方法等ヲ規定スルコト
- 二 前項ニ依リ規定スヘキ要領ハ大體左ノ通
 - (イ) 地租ノ課稅標準ハ法定地價ヲ廢シテ賃賃價格ニ依ルコトトシ其ノ調査決定ニ付テハ現行所得稅法ニ準シタル調査委員會ノ制度ヲ設クルコト
 - (ロ) 營業稅ハ大體國稅營業稅ノ通トシ其ノ課稅標準中ヨリ原則トシテ建物賃賃價格ヲ削除シ其ノ他各業體ニ應シ課稅標準ノ種目又ハ計算方法ヲ修補スルコト但シ課稅最低限ハ之ヲ低下スルコト
- 三 兩稅ノ稅率ハ各地方全然同一ナラシムルヲ得スト雖現行地租及營業稅ハ相互權衡ヲ保持セサルモノト認メラルルヲ以テ之ヲ改正シ其收益ヲ根據トシテ兩稅間ノ權衡ヲ保持シタル最高稅率ヲ法律ニテ規定スルコト而シテ若シ之ヲ超過シテ課稅スルノ必要アルトキハ中央政府ノ認可ヲ受ケシムルコト但シ此ノ場合ハ兩稅共其ノ最高稅率ニ達シタルトキニ限ル
- 四 家屋稅モ大體前各項ニ準スルコト

第四編

附帶希望決議

第四 附帶希望決議

- 一 本整理案ハ諮問ノ趣旨ニ依リ現在ノ歳入ニ増減ヲ來ササルコトヲ目標トシテ作成シタルモノナルヲ以テ財源ノ關係上地租及營業稅ハ當分約半額ヲ國稅トシテ存置スルコトト爲シタルモ理想トシテハ其ノ全額ヲ地方稅ニ委讓スヘキモノナルカ故ニ軍備縮小ニ因リ生スル財源ヲ以テ此ノ兩稅ノ全部ヲ地方稅ニ委讓セムコトヲ望ム
- 二 間接國稅ニ關スル稅制整理ノ結果課稅ノ權衡上ヨリ新ニ飴、メリヤス、フェルト、化粧品、清涼飲料ニ對シ課稅ヲ爲シ約一千二百萬圓ノ歳入ヲ圖ルコトヲ計畫シタルモ若此ノ際他ニ適當ナル財源アルニ於テハ此等ノ比較的大ナラサル新稅ヲ創設スルハ稅制整理ノ大體ヨリ通觀シテ寧ロ避クヘキモノト認ム而シテ既ニ稅制整理ノ稅源トシテ酒類ニ對シ或程度ノ增稅ヲ爲ス以上ハ之レトノ權衡上煙草ニ對シテモ若干値上ヲ爲シ之レヲ財源ト爲スヲ相當トスヘシ今參考トシテ調査スルニ煙草値上ニ因リ大正十年度ニ於ケル煙草ノ賣行高ヲ基本トシテ其ノ定價ノ平均二割程度ノ値上ヲ爲ストセハ相當消費減ヲ見込約一千二百萬圓ノ歳入ヲ得ヘキカ故ニ此ノ財源ニ因リ叙上新稅ノ創設ヲ見合ヌヲ可ト認ム尤モ專賣制度ニ關スル調査ハ本諮問案ノ範圍外ニ屬スルモ特ニ此ノ希望ヲ附加ス

調査ハ本州調査ノ最モ多ク、神ノ説ノ最モ明瞭ナリ

其ノ一、二百萬圓ノ輸入ノ料、十ノ額ニ比シ、相違ニ因テ、輸入ノ概算ノ見、ス、百十額ノ次ニ、其ノ

半額ノ額、ノ概算ノ算計高、基本ナリ、其ノ次期ノ半額ニ、其ノ概算ノ算計高、輸入ノ概算ノ算計高、其

ノ、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其

ノ、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其

ノ、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其

第四 調査結果

全額ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其

ノ、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其

ノ、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其

ノ、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其

ノ、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其

ノ、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其

ノ、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其

ノ、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其

ノ、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其

ノ、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其

ノ、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其

ノ、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其ノ概算ノ算計高、其

SK94



